



東北学院大学

東北学院大学大学院経営学研究科
履修証明プログラム

2026 年度 受講生募集要項

1. 履修証明プログラムの紹介

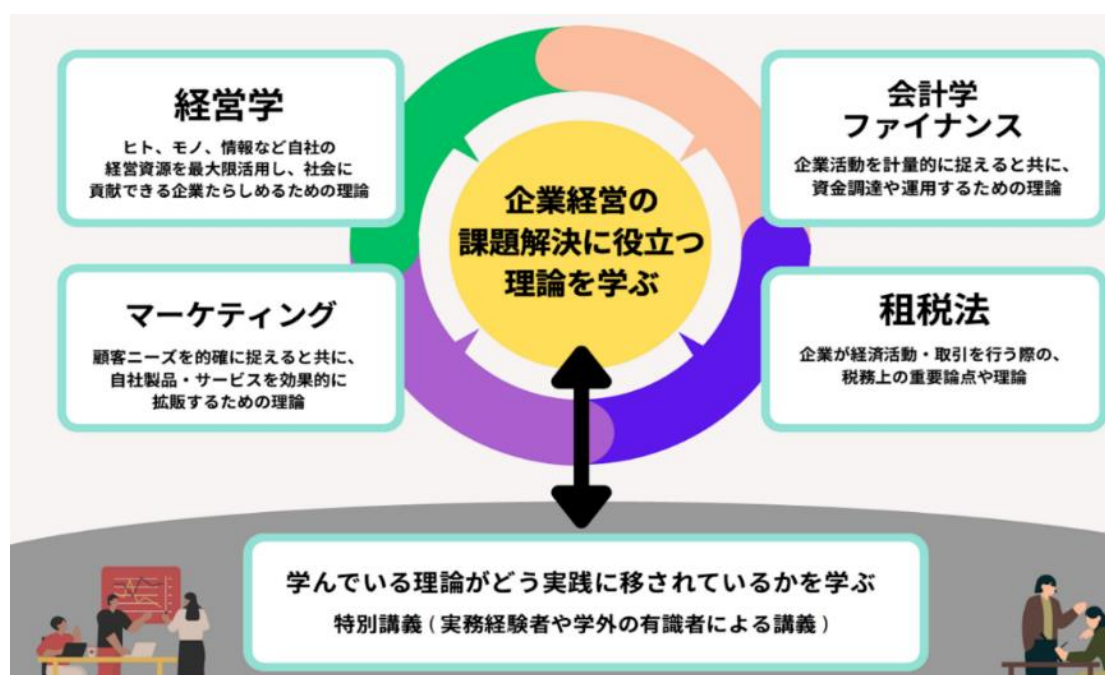
本プログラムにおいて提供する科目は、全て東北学院大学大学院経営学研究科において大学院生向けに開講しているものであり、企業経営のレベルアップや課題解決に役立つ理論について充実した少人数教育で教授いたします。受講者ご自身の実務経験にあてはめたり、実務家教員を中心にオムニバス形式で開講している特別講義を受講したりすることを通じて、本プログラムにおいて学んだ諸理論が企業経営の現場でどのように生かされているかを把握し、理解を一層深めることが期待できます。

本プログラムでは、以下の2つのプログラムのうちどちらかを選択していただきます。

「企業経営リスクリングプログラム」

「企業経営スキルアッププログラム」

履修証明プログラムのカリキュラム



📌 ポイント

- (1) 大学院経営学研究科修士課程の開講科目を3科目以上履修し、単位修得が可能です。
- (2) 修士の学位を取得することは出来ませんが、ご自身のニーズや勉学に割ける時間に応じて、ご自身のペースで学んでいただくことが可能です。
- (3) 本プログラム修了生が所定の期間内に経営学研究科経営学専攻の修士課程に進学した場合、本プログラムで修得した単位は大学院修了のための単位の一部として組み入れることができます。したがって、大学院進学のための「トライアル」としても活用可能です。

履修証明プログラム学修目的別履修モデル

マーケティングの専門知識を学び直したい

⇒データを駆使した市場分析、そしてそれを踏まえた的確な経営戦略の策定ができるようにする。

推奨履修科目：「マーケティング特講」、「消費者行動論特講」、「経営戦略論特講」、「情報処理論特講」

従業員満足度を高め、事業を成長させるための知識を得たい

推奨履修科目：「ホスピタリティ・マネジメント特講」、「人的資源管理論特講」、「特別講義」

企業の戦略と組織を変革するための知識と分析視角を身につけたい

⇒経営環境の変化を分析し、その変化に適合した戦略策定と組織構築を進めて、経営成果に結びつけることができるようにする。

推奨履修科目：「経営管理論特講（CSR論）」、「経営戦略論特講」、「経営組織論特講」

財務会計や管理会計などの専門知識を深めたい（経理・財務などの業務に就いている社会人向け）

⇒会計学領域の理論的な理解を図り、実際の業務へ活かしていくことができるようにする。

推奨履修科目：「財務会計論特講Ⅰ」、「財務会計論特講Ⅱ」、「税務会計論特講Ⅰ」、「税務会計論特講Ⅱ」、「管理会計論特講」、「特別講義」

租税法・税務会計領域の専門知識のアップデートを図りたい（租税専門家、経理・財務などの業務に就いている社会人向け）

⇒租税法・税務会計学領域の理論的な理解を図り、実際の業務へ活かしていくことができるようにする。

推奨履修科目：「税務会計論特講Ⅰ」、「税務会計論特講Ⅱ」、「租税法特講Ⅲ」、「租税法特講Ⅳ」、「特別講義」

履修証明プログラムの授業について

<時間割の例>

	1 限目 (8 : 45～)	2 限目 (10 : 45～)	3 限目 (13 : 15～)	4 限目 (15 : 00～)	5 限目 (16 : 45～)	6 限目 (18 : 25～)	7 限目 (20 : 05～)
月						経営学特講	財務会計論特講
火						商業史特講	外国経営書研究
水							原価計算論特講
木							
金							財務諸表分析特講
土		税務会計論特講	租税法特講			特別講義	

逆L字型の配置となる

✓ 働きながら学んでいただけるように、**平日夜間と土曜日のみに授業を配置**。

2. 募集要項

● 応募資格

<企業経営リスキリングプログラム>

学士の学位を有する者、又は本研究科においてこれと同等以上の学力があると認めた者で 22 歳に達した者。

<企業経営スキルアッププログラム>

以下のいずれかの要件を満たす方が応募資格を有します。

- ① 学士の学位を有する者、又は本研究科においてこれと同等以上の学力があると認めた者で 22 歳に達した者。
- ② 本学学部の 4 年次に在学しており、3 年次終了時点までに、卒業単位に算入される単位数を 112 以上修得し、かつ GPA が 3.5 以上であること。

● 募集定員

8 名

● 履修期間

半期または 1 年間(2026 年 4 月もしくは 9 月開講～2026 年 8 月もしくは 2027 年 3 月修了)

具体的な履修期間のパターン ※以下のいずれかを選択いただきます。

- ① 通年(2026 年 4 月開講～2027 年 1 月終講予定)
- ② 半期(前期、2026 年 4 月開講～2026 年 8 月終講予定)
- ③ 半期(後期、2026 年 9 月開講～2027 年 1 月終講予定)

※授業の実施期間については、「2026 年度東北学院大学学事暦」をご参照ください。

● 出願書類

下記の①と②の書類をご準備ください。

- ① 履修生願書(所定用紙)
- ② 最終学歴を証明する各種証明書(卒業証明書等)

● 検定料

10,000 円

※納付された検定料は返還いたしません。

●出願方法

下記の①と②の手続を行ってください。

①出願書類の提出(郵送または持参またはメール)

②検定料を指定口座に納付

※①の出願書類は、大学院課まで直接お越しいただくか、メール、電話、または郵送にてご請求ください。書類と併せて検定料の支払い先口座情報もお伝えいたします。

※郵送でのお申込みの際には、下記をご用意のうえ、出願書類提出先へ送付ください。

◆住所・氏名・日中連絡が取れる電話番号・経営学研究科履修証明プログラム出願書類希望と記載した書類

◆返信用封筒に送付先住所・氏名を記入し、重量 50g 以内分の切手を貼ったもの

●出願書類提出先

〒984-8588 仙台市若林区清水小路3-1

東北学院大学 学務部大学院課(五橋キャンパス講義棟2階)

Tel 022-354-8202 E-Mail daigakuin@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

●出願期間

2026 年1月9日(金)～1月 22 日(木)

※窓口開室時間は、平日9時～17 時です。

●選考方法

書類審査(募集定員を超過した場合、面接審査も実施予定)

●許可の通知

郵送にてお知らせいたします。2026 年 2 月 27 日(金)以降に通知発送予定です。

●受講手続

許可通知受け取り後、2026 年3月 12 日(木)までに受講料を納付し、諸手続を完了してください。詳しくは、郵送されてくる受講手続書類をご覧ください。

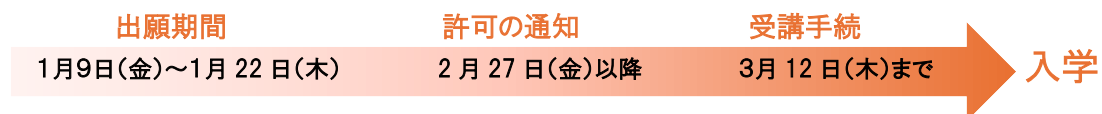
●受講料

120, 000 円～240,000 円

※受講料は2単位につき 40,000 円、最低3科目の受講が必要。最大6科目まで受講可能です。

※本学の学部学生の受講は無料です。

●入学までの手続



3. 受講日程(予定)

●講義時間

1コマ 90 分×15 回 平日夜間(6時限・7時限)もしくは土曜日に開講。

※全て経営学研究科正規授業です。

●修了要件

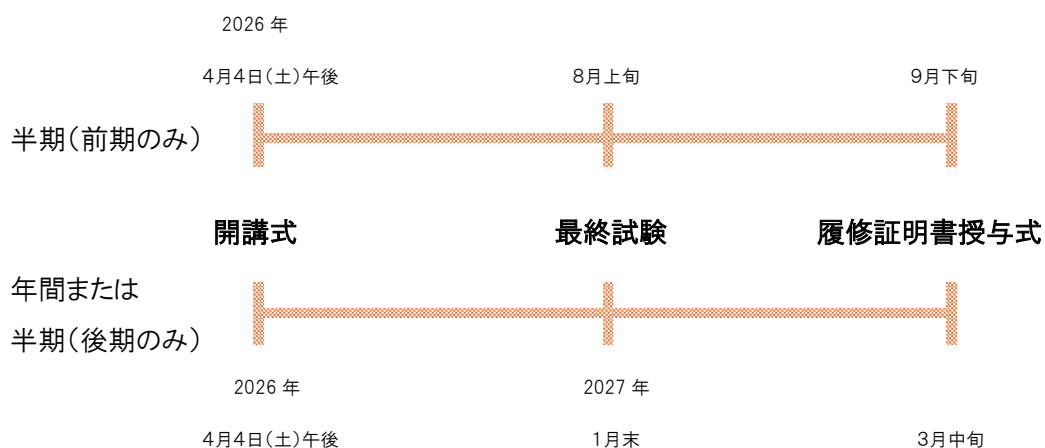
3科目以上に9割以上出席の上、それぞれの科目において最終試験で合格すること(単位認定基準は大学院学生と同一)。

<企業経営リスキングプログラム>

厚生労働省「専門実践教育訓練給付制度」による補助を希望する場合には、実務経験者教員科目を50%以上とすること。

※本年度は補助の適用はありません。ご了承ください。

●年間スケジュール



4. 時間割表(予定)

選択科目の履修希望については、受講決定後に申請していただきます。

1限目	2限目	3限目	4限目	5限目	6限目	7限目
8:45～10:15	10:45～12:15	13:15～14:45	15:00～16:30	16:45～18:15	18:25～19:55	20:05～21:35

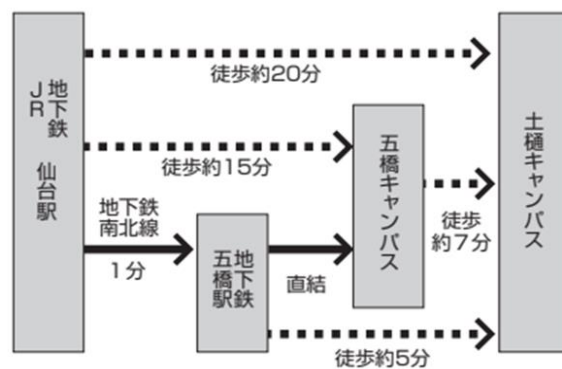
前期

月					管理会計論特論 消費者行動論特講	原価計算論特講 経営史特講
火					監査論特講 経営組織論特講	
水					ホスピタリティ マネジメント特講	経営戦略論特講 財務会計論特講Ⅰ
木						
金					経営学特講	財務諸表分析特講
土	税務会計論特講Ⅰ	租税法特講Ⅰ 租税法特講Ⅲ			特別講義Ⅰ	
集中講義	経営管理論特講	※特別講義の詳しい開講日程につきましては、入学後にお知らせいたします。				

後期

月					ファイナンス特論 マーケティング特講	
火					商業史特講 情報処理論特講	
水					人的資源 管理論特講	国際経営論特講 財務会計論特講Ⅱ
木						
金						
土	税務会計論特講Ⅱ	租税法特講Ⅱ			特別講義Ⅱ	

キャンパス所在地



《お問い合わせ》

東北学院大学 学務部大学院課

〒984-8588 宮城県仙台市若林区清水小路 3 番地 1

Tel 022-354-8202

E-Mail daigakuin@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

HP <https://www.tohoku-gakuin.ac.jp/faculty/graduate/>

年 月 日

2026 年度「企業経営リスクリングプログラム」及び「企業経営スキルアッププログラム」
履修生願書(1-1)

東北学院大学

ふりがな			性 別	【写真貼付欄】 ①脱帽 ②3ヶ月以内に撮影したもの ③写真の裏面に氏名を記入してから貼付のこと ④縦4cm×横3cm
氏 名			男 ・ 女	
生年月日	年 月 日 (満 歳)	※本籍・国籍 都 道 府 県 (国籍は外国籍の方のみ記入)		
電 話	自宅 () 携帯 ()			
現 住 所	〒 -			
E-mail				
(高等学校から記入) 学 歴	在 学 期 間	学 校 名 (学部学科等まで記入)		卒業・修了・退学
	年 月～ 年 月			
	年 月～ 年 月			
	年 月～ 年 月			
(直近のものから順に記入) 職 歴	在 職 期 間	勤 務 先 名		所 在 地 (都道府県・市区町村まで記入)
	年 月～ 年 月			
	年 月～ 年 月			
	年 月～ 年 月			
	年 月～ 年 月			
志 望 理 由				
希望のコースに○をつけてください。 ①企業経営リスクリングプログラム ②企業経営スキルアッププログラム				

2026年度「企業経営リスクリングプログラム」及び「企業経営スキルアッププログラム」
履修生願書(1-2)

希望のコースに○をつけてください。

①企業経営リスクリングプログラム ②企業経営スキルアッププログラム

履修希望の科目の左側に○をつけてください。履修できる科目は、3～6科目です。

履修希望	科目名	単位	担当講師(所属)
	経営学特講	2	折橋 伸哉(経営学研究科)
	経営史特講	2	菅山 真次(経営学研究科)
	経営管理論特講	2	矢口 義教(経営学研究科)
	経営戦略論特講	2	宋 元旭(経営学研究科)
	情報処理論特講	2	根市 一志(経営学研究科)
	経営組織論特講	2	岡田 耕一郎(経営学研究科)
	国際経営論特講	2	村山 貴俊(経営学研究科)
	人的資源管理論特講	2	櫻井 雅充(経営学研究科)
	商業史特講	2	齋藤 善之(経営学研究科)
	ホスピタリティ・マネジメント特講	2	森下 俊一郎(経営学研究科)
	マーケティング特講	2	李 楊(経営学研究科)
	消費者行動論特講	2	工藤 大介(経営学研究科)
	ファイナンス特講	2	松村 尚彦(経営学研究科)
	財務会計論特講Ⅰ	2	小野 慎一郎(経営学研究科)
	財務会計論特講Ⅱ	2	小野 慎一郎(経営学研究科)
	管理会計論特講	2	佐々木 郁子(経営学研究科)
	原価計算論特講	2	窪田 嵩哉(経営学研究科)
	財務諸表分析特講	2	棚橋 則子(経営学研究科)
	税務会計論特講Ⅰ	2	堀 治彦(経営学研究科)
	税務会計論特講Ⅱ	2	堀 治彦(経営学研究科)
	租税法特講Ⅰ	2	堀 治彦(経営学研究科)
	租税法特講Ⅱ	2	堀 治彦(経営学研究科)
	租税法特講Ⅲ	2	小池 和彰(経営学研究科)
	監査論特講	2	佐久間 義浩(経営学研究科)
	特別講義Ⅰ	2	折橋 伸哉(経営学研究科) ※オムニバス
	特別講義Ⅱ	2	折橋 伸哉(経営学研究科) ※オムニバス

※科目によっては、オンライン受講についても対応可能なのでご相談ください。

科目名

経営学特講

担当教員

折橋 伸哉

■テーマ

製造企業を主な事例として経営管理全般を学ぶ

■講義内容

本講義では、経営管理論が扱う広範な領域のうち、日本経済を支えているといつてよい製造企業における経営管理に関する諸問題、さらにはその競争優位性の源泉と海外生産拠点への移転可能性といったトピックを中心に展開する。この分野を網羅した教科書をベースに進めているが、随時講師自身が調査・研究活動の中で知りえた事例を講義の中に織り交ぜつつ、可能な限り実践にも活かせるような知識を講義することを心がける。

■達成目標

製造企業の経営管理に関する諸問題について考察し、以って経営管理についての理解を深めることを目的としている。とりわけ、経営資源のうちヒト・モノの管理に関する諸課題(カネの管理については、会計学など他科目に委ねる)及び経営戦略論と経営管理論の接点や関連性について、本講義終了時にはより理解が深まっていることを目標としている。

■授業計画

第1回

【事前学修】 テキストの該当部分に予め目を通してくること。

【授業内容】 開発と生産のプロセス分析:製品開発過程および生産工程のプロセス分析について、テキストに即して解説する。

【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第2回

【事前学修】 テキストの該当部分に予め目を通してくること。

【授業内容】 製品と工程の歴史分析: 製品・工程ライフサイクル説について解説すると共に、大量生産システムの成立とそれを支える理論についてテキストに即して述べる。

【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第3回

【事前学修】 テキストの該当部分に予め目を通してくること。

【授業内容】 競争力とその構成要素:競争力とその構成要素について、テキストに即して解説する。

【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第4回

【事前学修】 テキストの該当部分に予め目を通してくること。

【授業内容】 コスト・生産性の管理と改善①:原価管理を中心に、テキストに即して解説する。

【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第5回

【事前学修】 テキストの該当部分に予め目を通してくること。

【授業内容】 コスト・生産性の管理と改善②:生産性の概念、改善活動とIEを中心に、テキストに即して解説する。

【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第6回

【事前学修】 テキストの該当部分に予め目を通してくること。

【授業内容】 納期と工程管理:生産計画や在庫システムなどについて、テキストに即して解説する。

【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第7回

【事前学修】 テキストの該当部分に予め目を通してくること。

【授業内容】 品質とその管理・改善:品質管理の考え方について、テキストに即して解説する。

【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第8回

【事前学修】 テキストの該当部分に予め目を通してくること。

【授業内容】 フレキシビリティ:フレキシビリティの概念とそれを実現する多様な手法について、テキストに即して解説する。

【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第9回

【事前学修】 テキストの該当部分に予め目を通してくること。

【授業内容】 生産戦略:機能別戦略の一つである生産戦略について、テキストに即して解説する。

【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第10回

【事前学修】 テキストの該当部分に予め目を通してくること。

【授業内容】 人事・労務管理:テキスト第10章の内容に即して解説する。

【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第11回

【事前学修】 テキストの該当部分に予め目を通してくること。

【授業内容】 設備管理と生産技術:テキスト第11章の内容に即して解説する。

【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第12回

【事前学修】 テキストの該当部分に予め目を通してくること。

【授業内容】 購買管理とサプライヤー・システム: テキスト第12章の内容に即して解説する。

【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第13回

【事前学修】 テキストの該当部分に予め目を通してくること。

【授業内容】 製品開発の基礎:プロセス・組織・パフォーマンスおよび製品開発とその短縮:テキスト第13章および第14章の内容に即して解説する。

【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第14回

【事前学修】 テキストの該当部分に予め目を通してくること。

【授業内容】 「開発コスト・開発生産性とその向上」「総合商品力と開発の組織・プロセス」: テキスト第15章および第16章の内容に即して解説する。

【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第15回

【事前学修】 テキストの該当部分に予め目を通してくること。

【授業内容】 研究開発戦略、およびまとめ:戦略的もの造り経営を目指して: テキスト第17章および第18章の内容に即して解説する。

【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

■成績評価方法・基準

毎回の授業後に提出してもらった感想レポート、受講態度も含めて総合的に判断する。欠席回数が3回を超えると単位修得の資格を失うので注意してほしい。

■学修に必要な準備

新聞やニュースなどで、企業を取り囲む社会・環境の課題事項についてアンテナを高くしておくようにすることが望ましい。

■関連して受講することが望ましい科目

■テキスト

藤本隆宏(2001)『生産マネジメント入門Ⅰ』・『生産マネジメント入門Ⅱ』日本経済新聞社

■参考文献

■履修上の注意

■この科目の特色

1. オフィス・アワーについては開講時に指示する。
2. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業に該当

本授業では、講義を行っている途中でも受講者による授業内容についての質問を随時受け付けており、その内容によっては単に回答するのみならず、受講者全員による討論に発展させることがある。

科目名

経営史特講

担当教員

菅山 真次

■テーマ

日本経営史を学ぶ:新しい通史を読む

■講義内容

この講義のテーマは、最近出版された日本経営史の2冊の通史を熟読することを通して、日本の企業発展のダイナミズムを学ぶことである。最初に取り上げるのは初心者向けのテキストで、江戸時代―第1次大戦前、両大戦間期、第2次大戦後の3部構成である。まずこの本を熟読して、基本的な歴史の流れをつかむことを目指す。そのうえで、最新の研究成果をふんだんに盛り込んだ上級レベルのテキストを読み込む。理解が難しいところも多々あると思うが、読めば必ず知的刺激を得ることができる素晴らしい本である。【アクティブ・ラーニング科目】

■達成目標

- ①日本企業の江戸時代から現在までの歴史的な歩みについて、その概略を説明することができる。
- ②日本の経営史研究のおよそその動向と、現在の課題について説明することができる。
- ③1990年代以降の日本の企業システムの変化について、その基本的な論点を説明することができる。

■授業計画

第1回

- 【事前学修】 テキスト①序文・各部概説を熟読する
- 【授業内容】 テキスト①序文・各部概説
- 【事後学修】 テキスト①序文・各部概説を再読する

第2回

- 【事前学修】 テキスト①第2章を熟読する
- 【授業内容】 テキスト①第2章
- 【事後学修】 テキスト①第2章を再読する

第3回

- 【事前学修】 テキスト①第3章を熟読する
- 【授業内容】 テキスト①第3章
- 【事後学修】 テキスト①第3章を再読する

第4回

- 【事前学修】 テキスト①第6章を熟読する
- 【授業内容】 テキスト①第6章
- 【事後学修】 テキスト①第6章を再読する

第5回

- 【事前学修】 テキスト①第7章を熟読する
- 【授業内容】 テキスト①第7章
- 【事後学修】 テキスト①第7章を再読する

第6回

- 【事前学修】 テキスト①第13章を熟読する
- 【授業内容】 テキスト①第13章
- 【事後学修】 テキスト①第13章を再読する

第7回

- 【事前学修】 テキスト①第14章を熟読する
- 【授業内容】 テキスト①第14章
- 【事後学修】 テキスト①第14章を再読する

第8回

- 【事前学修】 テキスト①第15章を熟読する
- 【授業内容】 テキスト①第15章
- 【事後学修】 テキスト①第15章を再読する

第9回

- 【事前学修】 テキスト②序章・終章を熟読する
- 【授業内容】 テキスト②序章・終章
- 【事後学修】 テキスト②序章・終章を再読する

第10回

- 【事前学修】 テキスト②第1章を熟読する
- 【授業内容】 テキスト②第1章
- 【事後学修】 テキスト②第1章を再読する

第11回

- 【事前学修】 テキスト②第2章を熟読する
- 【授業内容】 テキスト②第2章
- 【事後学修】 テキスト②第2章を再読する

第12回

- 【事前学修】 テキスト②第3章、159-200頁を熟読する
- 【授業内容】 テキスト②第3章、159-200頁
- 【事後学修】 テキスト②第3章、159-200頁を再読する

第13回

- 【事前学修】 テキスト②第3章、201-264頁を熟読する
- 【授業内容】 テキスト②第3章、201-264頁
- 【事後学修】 テキスト②第3章、201-264頁を再読する

第14回

- 【事前学修】 テキスト②第4章、265-336頁を熟読する
- 【授業内容】 テキスト②第4章、265-336頁
- 【事後学修】 テキスト②第4章、265-336頁を再読する

第15回

- 【事前学修】 テキスト②第4章、337-401頁を熟読する
- 【授業内容】 テキスト②第4章、337-401頁
- 【事後学修】 テキスト②第4章、337-401頁を再読する

■成績評価方法・基準

* 討論への参加の積極性(50%)・発言内容(50%)で評価する。具体的な評価基準は、授業時に公開する。

■学修に必要な準備

* 毎回テキストの熟読が必要。LMSを活用した授業を実施する。

■関連して受講することが望ましい科目

*経営学関連の諸科目

■テキスト

*①宮本又郎ほか編著『1からの経営史』(碩学舎・中央経済社、2014年、ISBN 978-4502089008)②粕谷誠『ものづくり日本経営史』(名古屋大学出版会、2012年、ISBN 978-4815807153)

■参考文献

*授業中に指示する。

■履修上の注意

*オフィスアワーに代わり、LMSの機能を活用する。

■この科目の特色

1. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業に該当

本授業では、受講者によるグループディスカッションや発表を中心とした双方向の形式を取り入れている。

科目名

経営管理論特講

担当教員

矢口 義教

■テーマ

「企業の倫理やガバナンスなどから企業の本質について理解を深める」

■講義内容

本授業科目では、現代企業について、企業の根本的な性質、コーポレート・ガバナンス、企業の社会的責任(CSR)などの側面から、企業と社会の関係について学ぶ。企業が存在する意味を理解し、同時に社会人・職業人として働く意味を理解することで職業観や職業倫理を修得する。

第1に企業数、GDP、雇用人数などを説明して企業の役割について言及するとともに、株式会社を中心とする企業の仕組みを理解する。これを踏まえて企業統治を説明していく。企業の統治は、ステークホルダー(利害関係者)との関係から、企業が適切に指揮・統制されることで、健全な経営を導くものであり、日米の背景を学んだうえで進展している改革にも触れる。第2に企業が果たすCSRの議論を進めていく。CSRそれ自体の性質について、CSRピラミッドという枠組みを確認し、大企業におけるCSRの制度化の概要を解説する。組織的なCSR推進の仕組みについて見たうえで、ESGやSDGsに見られる近年の国際的な潮流についても確認する。また、相次ぐ企業不祥事について、全体的な特徴を理解するとともに、その発生原理と解決するための制度的施策も検討する。

最後に中小・地域企業のCSR実践に果たす経営理念の役割を検討する。中小企業のCSRは、経営者の価値観や理念に基づく暗黙的CSRであり、経営者の属人的性質の強いCSRの持続可能性を担保するために、世代を超えてリーダーシップが承継される必要がある。また、CSR実践の根底には経営理念の存在がしており、これを組織に浸透させることが経営者の役割になることを指摘する。

■達成目標

職業の社会性・倫理性の認識を通して、「正しく」働くことの意味を理解することができるとともに、現代企業のガバナンスや社会的に責任に関して、企業事例の比較を通して、自らの観点から分析できるようになる。

■授業計画

第1回

【事前学修】

現代社会における企業の性質と役割

【授業内容】資本主義社会では、企業活動が経済を牽引してGDP(国内総生産)という国の富を創出することを示す。また、企業規模、企業数、雇用者数、具体的な企業事例から、その実態についても明らかにする。

【事後学修】

第2回

【事前学修】

企業形態(1)株式会社

【授業内容】資本主義社会の中心的主体である株式会社の特徴を理解する。具体的には、株式会社の定義、株式と株主、証券市場との関係、取締役会を中心とする会社機関、財務諸表などから特徴に迫っていく。

【事後学修】

第3回

【事前学修】

企業形態(2)合名会社、合資会社、合同会社、相互会社など

【授業内容】株式会社以外の企業形態についても学ぶことで、正確にその特徴についての理解を深める。とくにベンチャー企業にも採用されることの多い合同会社を中心に、その意義に迫っていく。

【事後学修】

第4回

【事前学修】

企業と社会関係:ステークホルダーの概念

【授業内容】企業は、様々な社会関係のなかで活動をしている。そのような関係主体であるステークホルダーの概念や種類を整理し、企業がその活動によって影響を及ぼす範囲を理解していく。

【事後学修】

第5回

【事前学修】

第コーポレート・ガバナンス(1) アメリカにおける歴史的背景

【授業内容】コーポレート・ガバナンスの定義と概念を踏まえたうえで、アメリカにおける歴史的背景(所有と経営の分離、経営者支配、機関投資家の台頭、エンロン事件、リーマン・ショックなど)を理解する。

【事後学修】

第6回

【事前学修】

コーポレート・ガバナンス(2) 日本における歴史的背景

【授業内容】財閥解体、株式持合、バブル崩壊による3つの過剰、企業不祥事などの側面から、日本におけるコーポレート・ガバナンスの背景を整理することで、近年のガバナンス改革を理解するための前提をつくる。

【事後学修】

第7回

【事前学修】

【授業内容】	コーポレート・ガバナンス(3) 近年のガバナンス改革の特徴 日本で進むガバナンス改革(ガバナンス・コードや指名委員会等設置会社など)について述べることで、企業の収益性向上や成長にガバナンス改革が必要になることを学ぶ。
【事後学修】	
第8回	
【事前学修】	
【授業内容】	現代企業に求められる企業の社会的責任(CSR) CSRの性質について、「CSRピラミッド」に基づいて、経済、法律、倫理、社会貢献の4つの社会的責任の観点から理解する。また、それぞれが有する意味を正確に理解してCSRの基本を押さえる。
【事後学修】	
第9回	
【事前学修】	
【授業内容】	大企業におけるCSRの制度化 行動規範の策定、担当取締役、取締役直轄の委員会、専任部署、教育・訓練、情報開示など、大企業における組織的なCSRの推進体制について学ぶ。
【事後学修】	
第10回	
【事前学修】	
【授業内容】	同調圧力や組織人格化に基づく企業の不祥事 相次ぐ企業不祥事について、近年の動向を整理するとともに、それが発生する要因の1つになる同調圧力などのメカニズムを理解する。また、公益通報者保護法など内部告発者を保護する仕組みも学ぶ。
【事後学修】	
第11回	
【事前学修】	
【授業内容】	ESGやSDGsなどから見る近年のCSRをめぐる新潮流 近年のCSRに影響を及ぼす新しい取り組みであるESG(環境・社会・ガバナンス)とSDGs(持続可能な開発目標)を検討して、サステナビリティ(持続可能性)に関する理解を深めていく。
【事後学修】	
第12回	
【事前学修】	
【授業内容】	中小・地域企業のCSR(1) 事業関連性の高い活動 中小・地域企業のCSR実践について理解する。経営者の理念・価値観とリーダーシップに基づく事業関連性の高い取り組み(暗黙的CSR)を認識することで、あらゆる企業でCSRが実践可能なことを示す。
【事後学修】	
第13回	
【事前学修】	
【授業内容】	中小・地域企業のCSR(2) 中小企業の持続的CSR実践の枠組み 経営者の属人的な性質に依存する中小企業において、そのCSRの世代を超えた持続的実践について解き明かす。社会的に責任あるリーダーシップが、次世代へ承継されることでCSR実践が担保される。
【事後学修】	
第14回	
【事前学修】	
【授業内容】	経営理念と企業の社会的責任(1) 経営理念とは 企業の究極的な目的である経営理念について検討する。まず経営理念、戦略、組織文化、ガバナンスなどとの関連性を理解したうえで、経営理念が全体的に浸透することの必要性を示す。
【事後学修】	
第15回	
【事前学修】	
【授業内容】	経営理念と企業の社会的責任(2) 経営理念形成に基づくCSR実践 経営理念がCSRの実践に結びつくプロセスについて、松下幸之助の「水道哲学」や、R.W.ジョンソンJr.の「我が信条」の事例に基づいて確認し、経営者の理念の重要性を確認する。
【事後学修】	
■成績評価方法・基準	①毎回の授業後に実施する理解確認小テスト(最大30点:2点×15回)、②期末課題レポート(最大70点)、③受講態度も含めて総合的に判断する。欠席回数が3回を超えると単位修得の資格を失うので注意してほしい。 成績評価の基準については、以下の通りで評価する。 ①は記述式で行うが、その評価基準は、授業の内容をおおよそ理解できているかどうかで判断する。 ②の評価基準は、テーマ設定の妥当性(10点)、構成(序⇒本分⇒結論)の適切性(10点)、考察・分析の方法と視点(30点)、課題設定と結論の整合性および結論における意見の鋭さ(10点)、文章表現(10点)に基づいている。 ③受講態度については、授業中の私語、内職、居眠りなどについて注意を受けても改善しない場合は、欠席扱いにすることもある。
■学修に必要な準備	新聞やニュースなどで、企業を取り囲む社会・環境の課題事項についてアンテナを高くしておくようにすることが望ましい。
■関連して受講することが望ましい科目	

特にないが、経営学特講や国際経営論特講など、経営学や経営管理論に関する授業を履修することが望ましい。

■テキスト

佐久間信夫・山田雅俊・矢口義教編著(2025予定)『ESG経営の展開』同文館

■参考文献

矢口義教(2023)『地域を支え、地域を守る責任経営—CSR・SDGs時代の中小企業経営と事業承継—』創成社
佐久間信夫・井上善博・矢口義教編著(2024)『入門 企業論』法律文化社

■履修上の注意

オフィス・アワーについては開講時に指示する。

■この科目の特色

1. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業に該当

本講義では、まず教員が各回のテーマに基づき授業(70分程度)をした後に、質疑応答およびディスカッションを行う。ディスカッションでは、授業のなかの特定トピックについて意見や感想を述べていただく。

科目名

経営戦略論特講

担当教員

宋 元旭

■テーマ

企業間関係から生まれる競争優位を理解し、競争と協力が同時に存在するCo-opetitionのマネジメントについて考察する。

■講義内容

企業間関係が競争優位を生むメカニズムを軸に、Relational View／Co-opetitionの理論と主要実証を精読し、企業の事例の分析や今後の展望について考察していきます。

■達成目標

- ① Relational View・Co-opetitionの基本概念を理解することができる。
- ② 企業間関係が価値創造・価値獲得、イノベーション、企業成果に与える因果メカニズムを説明することができる。
- ③ 産業・企業事例に適用し、競争優位の条件を考察することができる。

■授業計画

第1回

【事前学修】 事前に、シラバスを確認し、授業内容を把握してくる。

【授業内容】 本授業の進め方及びデータベースの使い方の学修

【事後学修】 論文データベースを使用し、論文をダウンロードする。

第2回

【事前学修】 事前に、Dyer and Singh(1998)を読み、質問やディスカッションポイントを整理する。

【授業内容】 Dyer and Singh(1998)の輪読・発表(発表に関するフィードバックは授業時に実施)

【事後学修】 授業で行ったDyer and Singh(1998)に関するディスカッションから1ページ程度で自分を意見をまとめたレポートをLMSで提出する。

第3回

【事前学修】 事前に、Dyer and Nobeoka(2000)を読み、質問やディスカッションポイントを整理する。

【授業内容】 Dyer and Nobeoka(2000)の輪読・発表(発表に関するフィードバックは授業時に実施)

【事後学修】 授業で行ったDyer and Nobeoka(2000)に関するディスカッションから1ページ程度で自分を意見をまとめたレポートをLMSで提出する。

第4回

【事前学修】 事前に、Dyer, Singh, and Hesterly(2018)を読み、質問やディスカッションポイントを整理する。

【授業内容】 Dyer, Singh, and Hesterly(2018)の輪読・発表(発表に関するフィードバックは授業時に実施)

【事後学修】 授業で行ったDyer, Singh, and Hesterly(2018)に関するディスカッションから1ページ程度で自分を意見をまとめたレポートをLMSで提出する。

第5回

【事前学修】 事前に、Bengtsson and Kock(2000)を読み、質問やディスカッションポイントを整理する。

【授業内容】 Bengtsson and Kock(2000)の輪読・発表(発表に関するフィードバックは授業時に実施)

【事後学修】 授業で行ったBengtsson and Kock(2000)に関するディスカッションから1ページ程度で自分を意見をまとめたレポートをLMSで提出する。

第6回

【事前学修】 事前に、Quintana-García and Benavides-Velasco(2004)を読み、質問やディスカッションポイントを整理する。

【授業内容】 Quintana-García and Benavides-Velasco(2004)の輪読・発表(発表に関するフィードバックは授業時に実施)

【事後学修】 授業で行ったQuintana-García and Benavides-Velasco(2004)に関するディスカッションから1ページ程度で自分を意見をまとめたレポートをLMSで提出する。

第7回

【事前学修】 事前に、Gnyawali and Park(2011)を読み、質問やディスカッションポイントを整理する。

【授業内容】 Gnyawali and Park(2011)の輪読・発表(発表に関するフィードバックは授業時に実施)

【事後学修】 授業で行ったGnyawali and Park(2011)に関するディスカッションから1ページ程度で自分を意見をまとめたレポートをLMSで提出する。

第8回

【事前学修】 事前に、Ritala and Hurmelinna-Laukkanen(2009)を読み、質問やディスカッションポイントを整理する。

【授業内容】 Ritala and Hurmelinna-Laukkanen(2009)の輪読・発表(発表に関するフィードバックは授業時に実施)

【事後学修】 授業で行ったRitala and Hurmelinna-Laukkanen(2009)に関するディスカッションから1ページ程度で自分を意見をまとめたレポートをLMSで提出する。

第9回

【事前学修】 事前に、Ritala(2012)を読み、質問やディスカッションポイントを整理する。

【授業内容】 Ritala(2012)の輪読・発表(発表に関するフィードバックは授業時に実施)

【事後学修】 授業で行ったRitala(2012)に関するディスカッションから1ページ程度で自分を意見をまとめたレポートをLMSで提出する。

第10回

- 【事前学修】 事前に、Raza-Ullah, Bengtsson, and Kock(2014)を読み、質問やディスカッションポイントを整理する。
- 【授業内容】 Raza-Ullah, Bengtsson, and Kock(2014)の輪読・発表(発表に関するフィードバックは授業時に実施)
- 【事後学修】 授業で行ったRaza-Ullah, Bengtsson, and Kock(2014)に関するディスカッションから1ページ程度で自分を意見をまとめたレポートをLMSで提出する。

第11回

- 【事前学修】 事前に、Bengtsson, Raza-Ullah, and Vanyushyn(2016)を読み、質問やディスカッションポイントを整理する。
- 【授業内容】 Bengtsson, Raza-Ullah, and Vanyushyn(2016)の輪読・発表(発表に関するフィードバックは授業時に実施)
- 【事後学修】 授業で行ったBengtsson, Raza-Ullah, and Vanyushyn(2016)に関するディスカッションから1ページ程度で自分を意見をまとめたレポートをLMSで提出する。

第12回

- 【事前学修】 事前に、Estrada, de Pablo, and Guillén(2016)を読み、質問やディスカッションポイントを整理する。
- 【授業内容】 Estrada, de Pablo, and Guillén(2016)の輪読・発表(発表に関するフィードバックは授業時に実施)
- 【事後学修】 授業で行ったEstrada, de Pablo, and Guillén(2016)に関するディスカッションから1ページ程度で自分を意見をまとめたレポートをLMSで提出する。

第13回

- 【事前学修】 事前に、Le Roy and Fernandez(2015)を読み、質問やディスカッションポイントを整理する。
- 【授業内容】 Le Roy and Fernandez(2015)の輪読・発表(発表に関するフィードバックは授業時に実施)
- 【事後学修】 授業で行ったLe Roy and Fernandez(2015)に関するディスカッションから1ページ程度で自分を意見をまとめたレポートをLMSで提出する。

第14回

- 【事前学修】 事前に、Gernsheimer, Kanbach, and Gast(2021)を読み、質問やディスカッションポイントを整理する。
- 【授業内容】 Gernsheimer, Kanbach, and Gast(2021)の輪読・発表(発表に関するフィードバックは授業時に実施)
- 【事後学修】 授業で行ったGernsheimer, Kanbach, and Gast(2021)に関するディスカッションから1ページ程度で自分を意見をまとめたレポートをLMSで提出する。

第15回

- 【事前学修】 最終レポートのテーマと分析対象企業を選定する。
- 【授業内容】 最終レポートの計画を発表(発表に関するフィードバックは授業時に実施)
- 【事後学修】 発表会時にえたコメントを基にレポートを完成させる(提出されたレポートは最終的にコメントをつけてフィードバックする。)

■成績評価方法・基準

最終レポート(企業間関係の分析を5,000字程度で提出):40%
事後課題(授業中のディスカッションに基づいて自分の意見を1ページで提出):30%
文献および最終レポートの発表:20%
講義中の発言:10%

■学修に必要な準備

指定された文献を必ず事前に読んでゼミに参加してください。
発表者は発表資料の配布が求められます。
発表者は事前に数回の発表練習を行うことが望ましいです。

■関連して受講することが望ましい科目

■テキスト

輪読する論文リストは1回目の授業に配布します。

■参考文献

授業中に紹介します。

■履修上の注意

5分の1を超える欠席は単位の修得資格を失います。
発表者、コメンテーターを担当した際に、公欠以外の理由で欠席することはいかなる理由でも認めません。
LMSを使い、出席確認および意見収集を行います。

■この科目の特色

1. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業に該当

本授業では、受講者によるグループディスカッションや発表を中心とした双方向の形式を取り入れています。

科目名

情報処理論特講

担当教員

根市 一志

■テーマ

般化線形モデル入門

■講義内容

アンケートや調査で得られるカテゴリカル・データ解析の主な目的は結果と原因の関連性を説明することである。それによって、意思決定に繋げることができるからである。それでは、どのような関連性が考えられるだろうか。原因と結果には全く関連がない、つまり、互いに独立であるのかを単に知りたい場合、結果を被説明変数、原因を説明変数にして、線形モデル、非線形モデルなどのモデルで関連性を表現する場合、さらに、結果を説明する原因は1つとは限らないので、複数の原因を想定して結果を説明する場合等、さまざまな関連性を考えることができる。この講義では、これらの統計的方法に統一的な枠組みを与える一般化線形モデルについて学修する。授業中、学生同士の議論を通してより理解を深めます。

■達成目標

- ①一般化線形モデルとは何か説明できる。
- ②一般化線形モデル、ロジスティック回帰モデル、対数線形モデルなどの手法を説明できる。
- ③一般化線形モデルがビジネスにおいてどのように応用できるか説明できる。

■授業計画

第1回

【事前学修】 シラバスを読み、どのようなことに取り組むのか確認する。

【授業内容】 講義概要の説明。授業内容、授業の進め方、一般化線形モデルとは何かなどを概観する。

【事後学修】 講義内容、達成目標、授業の進め方などを確認する。

第2回

【事前学修】 テキスト第1章を読み、授業に入る準備をしておく。

【授業内容】 序論：一般化線形モデルについて概観する。

【事後学修】 授業を振り返り、一般化線形モデルを学修するためのバックグラウンドについて理解したことを整理する。演習問題を解く。

第3回

【事前学修】 テキスト第2章を読み、授業に入る準備をしておく。

【授業内容】 演習問題の解説と講評。モデルの当てはめについて学修する。

【事後学修】 授業を振り返り、モデルの当てはめについて理解したことを整理する。演習問題を解く。

第4回

【事前学修】 テキスト第3章を読み、授業に入る準備をしておく。

【授業内容】 演習問題の解説と講評。指数型分布族と一般化線形モデルについて学修する。

【事後学修】 授業を振り返り、指数型分布族と一般化線形モデルについて理解したことを整理する。演習問題を解く。

第5回

【事前学修】 テキスト第4章を読み、授業に入る準備をしておく。

【授業内容】 演習問題の解説と講評。推定について学修する。

【事後学修】 授業を振り返り、推定について理解したことを整理する。演習問題を解く。

第6回

【事前学修】 テキスト第5章を読み、授業に入る準備をしておく。

【授業内容】 演習問題の解説と講評。推測について学修する。

【事後学修】 授業を振り返り、推測について理解したことを整理する。演習問題を解く。

第7回

【事前学修】 テキスト第6章を読み、授業に入る準備をしておく。

【授業内容】 演習問題の解説と講評。非線形モデルについて学修する。

【事後学修】 授業を振り返り、非線形モデルの構築と応用について理解したことを整理する。演習問題を解く。

第8回

【事前学修】 テキスト第7章を読み、授業に入る準備をしておく。

【授業内容】 演習問題の解説と講評。2値変数とロジスティック回帰について学修する。

【事後学修】 授業を振り返り、2値変数とロジスティック回帰について理解したことを整理する。演習問題を解く。

第9回

【事前学修】 テキスト第8章を読み、授業に入る準備をしておく。

- 【授業内容】 演習問題の解説と講評。名義および順序ロジスティック回帰について学修する。
- 【事後学修】 授業を振り返り、名義および順序ロジスティック回帰 について理解したことを整理する。演習問題を解く。

第10回

- 【事前学修】 テキスト第9章を読み、授業に入る準備をしておく。
- 【授業内容】 演習問題の解説と講評。ポアソン回帰と対数線形モデルについて学修する。
- 【事後学修】 授業を振り返り、ポアソン回帰と対数線形モデルについて理解したことを整理する。演習問題を解く。

第11回

- 【事前学修】 テキスト第10章を読み、授業に入る準備をしておく。
- 【授業内容】 演習問題の解説と講評。生存時間解析について学修する。
- 【事後学修】 授業を振り返り、生存時間解析 について理解したことを整理する。演習問題を解く。

第12回

- 【事前学修】 テキスト第11章を読み、授業に入る準備をしておく。
- 【授業内容】 演習問題の解説と講評。クラスターデータおよび経時データについて学修する。
- 【事後学修】 授業を振り返り、クラスターデータおよび経時データについて理解したことを整理する。演習問題を解く。

第13回

- 【事前学修】 テキスト第12章を読み、授業に入る準備をしておく。
- 【授業内容】 演習問題の解説と講評。ベイズ統計分析について学修する。
- 【事後学修】 授業を振り返り、ベイズ統計分析について理解したことを整理する。演習問題を解く。

第14回

- 【事前学修】 テキスト第13章を読み、授業に入る準備をしておく。
- 【授業内容】 演習問題の解説と講評。マルコフ連鎖モンテカルロ法について学修する。
- 【事後学修】 授業を振り返り、マルコフ連鎖モンテカルロ法について理解したことを整理する。演習問題を解く。

第15回

- 【事前学修】 これまで学修してきた内容を復習し、整理しておく。
- 【授業内容】 演習問題の解説と講評。これまで取り組んできた内容と理解度の照らし合わせを行う。
- 【事後学修】 これまで学修してきた内容を振り返り、目標達成度を確認する

■成績評価方法・基準

課題や演習問題による講義内容の理解度(70%)、学修に取り組む意欲(30%)を勘案して総合的に評価する。
評価基準はルーブリックの形で授業時に公開します。

■学修に必要な準備

- ①テキストの予習・復習。
- ②標準的な統計学の知識が必要なので、学修しておくこと。

■関連して受講することが望ましい科目

■テキスト

A.J.Dobson, A.G.Barnett, An Introduction To Generalized Linear Models, Fourth Edition, CRC Press, 2018, 978-1-138-74151-5

■参考文献

講義中に適宜、指示する。

■履修上の注意

- ①manaba、respon、Google Workspace for Educationを使用します。
- ②オフィスアワー等については開講時に指示します。

■この科目の特色

1. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業に該当

本授業では、受講者によるグループディスカッションや発表を中心とした双方向の形式を取り入れています。

科目名

経営組織論特講

担当教員

岡田 耕一郎

■テーマ

競争環境下における介護サービス組織のマネジメント

■講義内容

経営組織論特講では、組織マネジメントの観点から介護サービス組織を取り巻く環境の変化と介護サービス組織の環境適応を考察する。

■達成目標

- ①競争環境下における介護サービス組織の編成と介護サービスシステムについて、その概略を説明することができる。
- ②介護サービス組織の経営課題を組織マネジメントの観点から説明することができる。

■授業計画

第1回

【事前学修】 シラバスの内容に目を通す。

【授業内容】 オリエンテーション

【事後学修】 指定されたテキストを読み、介護サービスとサービス組織の概要を理解する。

第2回

【事前学修】 事前に配布した資料(非営利介護サービス組織の概要)を読む。

【授業内容】 非営利介護サービス組織とは何か

【事後学修】 非営利介護サービス組織の概要をレポートにまとめる。

第3回

【事前学修】 事前に配布した資料(介護保険制度の変遷)を読む。

【授業内容】 介護サービス組織を取り巻く環境と介護保険制度

【事後学修】 介護保険制度の変遷をレポートにまとめる。

第4回

【事前学修】 事前に配布した資料(組織と戦略の変革による環境適応)を読む。

【授業内容】 組織の環境適応～戦略論と組織論の研究～

【事後学修】 組織と戦略の変革による環境適応の概要をレポートにまとめる。

第5回

【事前学修】 事前に配布した資料(競争優位の獲得に関わる諸研究)を読む。

【授業内容】 組織の環境適応～環境の分析と競争優位の獲得～

【事後学修】 競争優位の獲得による環境適応の概要をレポートにまとめる。

第6回

【事前学修】 事前に配布した資料(環境適応の失敗のケース)を読む。

【授業内容】 組織の環境適応の失敗事例と分析

【事後学修】 環境適応の失敗のケースを分析し、レポートにまとめる。

第7回

【事前学修】 事前に配布した資料(組織の戦略的選択の概要)を読む。

【授業内容】 環境に対する介護サービス組織の戦略的選択

【事後学修】 組織の戦略的選択の概要をレポートにまとめる。

第8回

【事前学修】 事前に配布した資料(環境認識に関わる諸研究)を読む。

【授業内容】 介護サービス組織の環境認識

【事後学修】 介護サービス組織における環境認識の概要をレポートにまとめる。

第9回

【事前学修】 事前に配布した資料(意思決定モデルの概要)を読む。

【授業内容】 意思決定モデル

【事後学修】 介護サービス組織における意思決定の概要をレポートにまとめる。

第10回

- 【事前学修】 事前に配布した資料(組織設計の概要)を読む。
- 【授業内容】 介護サービス組織の構造と組織設計
- 【事後学修】 介護サービス組織における組織設計の概要をレポートにまとめる。

第11回

- 【事前学修】 事前に配布した資料(組織形態の発展)を読む。
- 【授業内容】 介護サービス組織の組織形態の発展
- 【事後学修】 介護サービス組織における組織形態の発展の概要をレポートにまとめる。

第12回

- 【事前学修】 事前に配布した資料(組織類型の概要)を読む。
- 【授業内容】 組織類型論
- 【事後学修】 介護サービス組織の組織類型の概要をレポートにまとめる。

第13回

- 【事前学修】 事前に配布した資料(経営理念とその変遷)を読む。
- 【授業内容】 介護サービス組織の経営理念
- 【事後学修】 介護サービス組織の経営理念の概要をレポートにまとめる。

第14回

- 【事前学修】 事前に配布した資料(組織文化とその変革)を読む。
- 【授業内容】 介護サービス組織の組織文化
- 【事後学修】 介護サービス組織の組織文化の概要をレポートにまとめる。

第15回

- 【事前学修】 配布した資料(第1回～第14回分)を再読する。
- 【授業内容】 介護サービス組織の要点整理
- 【事後学修】 授業で配布した資料とテキストに基づいて介護サービスシステムの変革方法をレポートにまとめる。

■成績評価方法・基準

授業における発表(50%)とレポート(50%)で評価します。評価の基準はルーブリック等の形で授業時に公開します。

■学修に必要な準備

■関連して受講することが望ましい科目

■テキスト

岡田耕一郎・岡田浩子『老人ホームをテストする』大学生協のデジタル教科書
岡田耕一郎・岡田浩子『介護とマネジメント』大学生協のデジタル教科書

■参考文献

講義で適宜紹介し、参考資料は配付します。

■履修上の注意

■この科目の特色

1. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業 および 2. 実務家教員や実務家による授業に該当

本授業では、受講者によるグループディスカッションや発表を中心とした双方向の形式を取り入れています。
実務経験に基づくケーススタディを用いて、実践的な理解の促進を図っています。

科目名

国際経営論特講

担当教員

村山 貴俊

■テーマ

テキスト講読を通じた国際経営の基礎理論への学び

■講義内容

経済のグローバル化が進展し、規模や業種に関わりなく、多くの企業が国際的視野のもとで経営を行う時代になっている。一方、地域社会も、それら企業の国際行動から様々な影響を受ける。現代社会に生きる我われにとって、国際経営という視点が、いっそう重要になっている。このような問題意識のもと、本講義では、国際経営の諸学説の理解ならびに国際企業の事例の分析を通じて、国際経営論の基礎的な分析視角の修得を目指す。本講義では、毎回、学生にテキストの内容を報告してもらう。その報告を基に受講生と教員とで討議をおこないテキストの内容への理解を深める。
また毎回の講義で小テストを実施し理解度を確認する。LMS上で小テストを実施するため、必ず学内WiFiに繋がる情報端末を持参すること。講義に遅刻した場合は、小テストは受験できず、その回のテストはゼロ点になる。

■達成目標

達成目標1 国際経営論の基礎的理論が理解できるようになる。
達成目標2 国際企業の経営実態が理解できるようになる。

■授業計画

第1回

【事前学修】 半年間の学びの目標を考えてくる。

【授業内容】 イントロダクション:『グローバル経営入門』というテキストの特徴について

【フィードバック】 講義内で実施したテストの結果と解答は、試験終了後にLMSを通じて開示する。

【事後学修】 ディスカッションを基に講義用ノートをまとめる。

第2回

【事前学修】 第1章 グローバル経営の考え方を事前に読解する。

【授業内容】 第1章 グローバル経営の考え方の解説

【フィードバック】 講義内で実施したテストの結果と解答は、試験終了後にLMSを通じて開示する。

【事後学修】 ディスカッションを基に第1章講義用ノートをまとめる。

第3回

【事前学修】 第2章 グローバル経営の戦略論を事前に読解する

【授業内容】 第2章 グローバル経営の戦略論の解説

【フィードバック】 講義内で実施したテストの結果と解答は、試験終了後にLMSを通じて開示する。

【事後学修】 ディスカッションを基に第2章講義用ノートをまとめる。

第4回

【事前学修】 第3章 グローバル経営戦略の諸側面を事前に読解する。

【授業内容】 第3章 グローバル経営戦略の諸側面の解説

【フィードバック】 講義内で実施したテストの結果と解答は、試験終了後にLMSを通じて開示する。

【事後学修】 ディスカッションを基に第3章講義用ノートをまとめる。

第5回

【事前学修】 第4章 グローバル経営の組織論を事前に読解する。

【授業内容】 第4章 グローバル経営の組織論の解説

【フィードバック】 講義内で実施したテストの結果と解答は、試験終了後にLMSを通じて開示する。

【事後学修】 ディスカッションを基に第4章講義用ノートをまとめる。

第6回

【事前学修】 第5章 グローバル統合・ローカル適応の論理を事前に読解する。

【授業内容】 第5章 グローバル統合・ローカル適応の論理の解説

【フィードバック】 講義内で実施したテストの結果と解答は、試験終了後にLMSを通じて開示する。

【事後学修】 ディスカッションを基に第5章講義用ノートをまとめる。

第7回

【事前学修】 第6章 多国籍企業の革新モデルを事前に読解する。

【授業内容】 第6章 多国籍企業の革新モデルの解説

【フィードバック】 講義内で実施したテストの結果と解答は、試験終了後にLMSを通じて開示する。

【事後学修】 ディスカッションを基に第6章講義用ノートをまとめる。

第8回

【事前学修】 第7章 グローバル経営の革新を事前に読解する。

【授業内容】 第7章 グローバル経営の革新の解説

【フィードバック】 講義内で実施したテストの結果と解答は、試験終了後にLMSを通じて開示する。

【事後学修】 ディスカッションを基に第7章講義用ノートをまとめる。

第9回

【事前学修】 第8章 グローバル・イノベーションとナレッジ・マネジメントを事前に読解する。

【授業内容】 第8章 グローバル・イノベーションとナレッジ・マネジメントの解説

【フィードバック】 講義内で実施したテストの結果と解答は、試験終了後にLMSを通じて開示する。

【事後学修】 ディスカッションを基に第8章講義用ノートをまとめる。

第10回

【事前学修】 第9章 グローバル R&D マネジメントを事前に読解する。

【授業内容】 第9章 グローバル R&D マネジメントの解説

【フィードバック】 講義内で実施したテストの結果と解答は、試験終了後にLMSを通じて開示する。

【事後学修】 ディスカッションを基に第9章講義用ノートをまとめる。

第11回

【事前学修】 第10章 グローバル戦略提携のマネジメントを事前に読解する。

【授業内容】 第10章 グローバル戦略提携のマネジメントの解説

【フィードバック】 講義内で実施したテストの結果と解答は、試験終了後にLMSを通じて開示する。

【事後学修】 ディスカッションを基に第10章講義用ノートをまとめる。

第12回

【事前学修】 第11章 グローバルな人的資源管理を事前に読解する。

【授業内容】 第11章 グローバルな人的資源管理の解説

【フィードバック】 講義内で実施したテストの結果と解答は、試験終了後にLMSを通じて開示する。

【事後学修】 ディスカッションを基に第11章講義用ノートをまとめる。

第13回

【事前学修】 第12章 リージョナル・マネジメントを事前に読解する。

【授業内容】 第12章 リージョナル・マネジメントの解説

【フィードバック】 講義内で実施したテストの結果と解答は、試験終了後にLMSを通じて開示する。

【事後学修】 ディスカッションを基に第12章講義用ノートをまとめる。

第14回

【事前学修】 第13章 グローバル経営における文化を事前に読解する。

【授業内容】 第13章 グローバル経営における文化の解説

【フィードバック】 講義内で実施したテストの結果と解答は、試験終了後にLMSを通じて開示する。

【事後学修】 ディスカッションを基に第13章講義用ノートをまとめる。

第15回

【事前学修】 終章 グローバル経営の課題を事前に読解する。

【授業内容】 終章 グローバル経営の課題の解説

【フィードバック】 講義内で実施したテストの結果と解答は、試験終了後にLMSを通じて開示する。

【事後学修】 ディスカッションを基に終章講義用ノートをまとめる。

■成績評価方法・基準

成績評価方法：講義内での討議(20%)、毎回のテスト(LMSを活用)(50%)、複数回の小レポート(LMSを活用)(30%)。
成績評価基準：達成目標1＝国際経営論の重要な理論や概念を正しく理解し、それを適切な表現で他者に伝えられているか(30%)。達成目標2＝国際経営論の理論や分析枠組みに当てはめて実際の企業の行動を分析し、それを適切な表現で他者に伝えられているか(30%)。国際経営論の理論や概念を理解したうえで試験に正しく解答できているか(40%)。
その他に、小テストの領域毎あるいは観点毎の配点をテスト実施時に公開する。評価基準は、領域毎あるいは観点毎に小テスト／レポートの実施時に公開する。

■学修に必要な準備
特になし。

■関連して受講することが望ましい科目
特になし。

■テキスト
浅川和宏『グローバル経営入門』日本経済新聞社、2003年(ISBN4-532-13260-6)
(<https://bookplus.nikkei.com/atcl/catalog/2022/9784532135270/>)。新版などが発売された場合は、ISBNなどが変更になる可能性があるの
で注意すること。

■参考文献
テキストの中で参考文献に挙げられている論文などを追加教材として読解することがある。これらの文献は英語で書かれた学術論文であるた
め、受講者には一定程度の英語の読解能力が不可欠となる。受講に際しては、この点を十分に承知したうえで参加して欲しい。

■履修上の注意
以下の注意事項を必ず理解しておくこと。
(注意1)1/5を超える欠席で単位修得の資格を失う。ただし、学校保健安全法施行規則第18条に指定された感染症への罹患および忌引(法
事を除く)を理由とする教務課発行の欠席届、公共交通機関の遅延を証明する教務課発行の欠席・遅延届がある場合は、欠席回数から除外
する。その際、学修機会を確保するために欠席回の講義資料は提供するが、追試や代替レポートは実施しない。そのため、欠席回の点数はゼ
ロ点になる。それ以外の理由(例えば、定期的ないし緊急性のない通院、部活動・サークル活動(大会出場を含む)、就職活動など)は、欠席届を
提出しても通常の欠席として扱い、また追試やレポートの提出期限の延長も一切行わない。欠席届は、必ず発行後の1回目の講義で提出する
こと。2回目以降に提出した場合は欠席届を受理しない。
(注意2)オフィスアワーは開講時に指示する。

■この科目の特色

1. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業 および 2. 実務家教員や実務家による授業に該当

本授業では、受講者による発表およびグループディスカッションを中心とした双方向の形式を取り入れています。また、教材に基づきリサー
クエーションの設定の仕方なども双方型で指導しています。

科目名

人的資源管理論特講

担当教員

櫻井 雅充

■テーマ

人的資源管理の考え方とそれに基づく取り組みを理解する

■講義内容

この授業では、人的資源管理(Human Resource Management: HRM)に関するテキストを輪読し、人的資源管理の考え方について理解を深めていきます。各回の授業では、1章ずつ発表担当者を決めて、担当する章について発表してもらいます。その後、全員でディスカッションを行います。全15回の授業を通じて、人的資源管理の考え方を身につけるだけでなく、そうした考え方に基づいて実際の企業・自治体の取り組みを理解できるようになることも狙いとしています。この授業は、対面授業で実施します。また、この授業は、担当者による発表の後に全員でディスカッションを行うアクティブ・ラーニング科目です。

■達成目標

人的資源管理の考え方に基づいて、企業・自治体の取り組みを理解できる

■授業計画

第1回

【事前学修】 事前に配布するスライドとテキストの第1章に目を通し、授業の概要および第1章の内容を把握しておく。

【授業内容】 イントロダクション:授業の概要と授業への参加方法、人的資源管理の位置づけ(1):人の管理とはどんなことか

【事後学修】 授業の概要および第1章の内容を復習しておく。

第2回

【事前学修】 テキストの第2章とその発表スライドに目を通し、人間モデル、組織行動の概要を把握しておく。

【授業内容】 人的資源管理の位置づけ(2):組織は人をどのように捉えるのか

【事後学修】 第2章の内容を復習しておく。

第3回

【事前学修】 テキストの第3章とその発表スライドに目を通し、組織設計の概要を把握しておく。

【授業内容】 人的資源管理の位置づけ(3):人の働く組織をどのようにつくるのか

【事後学修】 第3章の内容を復習しておく。

第4回

【事前学修】 テキストの第4章とその発表スライドに目を通し、採用、異動の概要を把握しておく。

【授業内容】 人的資源管理の仕組み(1):組織は人をどのように雇い入れるのか

【事後学修】 第4章の内容を復習しておく。

第5回

【事前学修】 テキストの第5章とその発表スライドに目を通し、キャリア開発、人材育成、教育訓練の概要を把握しておく。

【授業内容】 人的資源管理の仕組み(1):組織は人をどのように雇い入れるのか

【事後学修】 第4章の内容を復習しておく。

第6回

【事前学修】 テキストの第6章とその発表スライドに目を通し、評価、考課の概要を把握しておく。

【授業内容】 人的資源管理の仕組み(3):組織は仕事の結果をどのように評価するのか

【事後学修】 第6章の内容を復習しておく。

第7回

【事前学修】 テキストの第7章とその発表スライドに目を通し、昇進、昇格の概要を把握しておく。

【授業内容】 人的資源管理の仕組み(4):組織は人をどのように処遇するのか

【事後学修】 第7章の内容を復習しておく。

第8回

【事前学修】 テキストの第8章とその発表スライドに目を通し、賃金、福利厚生、退職金の概要を把握しておく。

【授業内容】 人的資源管理の仕組み(5):組織は人にどのような報酬を与えるのか

【事後学修】 第8章の内容を復習しておく。

第9回

【事前学修】 テキストの第9章とその発表スライドに目を通し、安全・衛生の概要を把握しておく。

【授業内容】 人的資源管理の仕組み(6):組織は人の安全と健康をどのように守っているのか

【事後学修】 第9章の内容を復習しておく。

第10回

【事前学修】 テキストの第10章とその発表スライドに目を通し、労使関係の概要を把握しておく。

【授業内容】 人的資源管理の仕組み(7):組織は労働組合とどのように関わるのか

【事後学修】 第10章の内容を復習しておく。

第11回

【事前学修】 テキストの第11章とその発表スライドに目を通し、退職の概要を把握しておく。

【授業内容】 人的資源管理の仕組み(8):組織は辞めていく人とどのように関わるのか

【事後学修】 第11章の内容を復習しておく。

第12回

【事前学修】 テキストの第12章とその発表スライドに目を通し、ダイバーシティ・マネジメントの概要を把握しておく。

【授業内容】 人的資源管理の多様化(1):多様化する働く人々を組織はどう管理するのか

【事後学修】 第12章の内容を復習しておく。

第13回

【事前学修】 テキストの第13章とその発表スライドに目を通し、非正規雇用の概要を把握しておく。

【授業内容】 人的資源管理の多様化(2):多様化する雇用形態を組織はどう管理するのか

【事後学修】 第13章の内容を復習しておく。

第14回

【事前学修】 テキストの第14章とその発表スライドに目を通し、裁量労働、在宅勤務の概要を把握しておく。

【授業内容】 人的資源管理の多様化(3):多様化する労働時間と場所を組織はどう管理するのか

【事後学修】 第14章の内容を復習しておく。

第15回

【事前学修】 テキストの第15章とその発表スライドに目を通し、ワーク・ライフ・バランス、働き方改革の概要を把握しておく。

【授業内容】 人的資源管理の多様化(4):多様化する働く意味づけを組織はどう管理するのか

【事後学修】 第15章の内容を復習しておく。

■成績評価方法・基準

発表(60%)とディスカッション(40%)により総合的に評価します。
発表の評価基準は、発表の仕方(50%),発表資料の内容(50%)です。
ディスカッションの評価基準は、ディスカッションへの参加度(50%),発言の内容(50%)です。

■学修に必要な準備

- ①テキストの該当する章に事前に目を通し、わからない箇所を各自で調べておくこと。
- ②発表担当者は、発表スライドを作成して発表の準備をしておくこと。
- ③授業後には、該当する章を読み直して理解を深めておくこと。

■関連して受講することが望ましい科目

経営管理論特講

■テキスト

上林憲雄・厨子直之・森田雅也(2025)『経験から学ぶ 人的資源管理〔第3版〕』有斐閣(ISBN 978-4-641-18473-2)。

■参考文献

上林憲雄・庭本佳子編著(2025)『人的資源管理 第2版』中央経済社(ISBN 978-4-502-53241-2)。
柴田好則(2024)『人的資源管理の考え方』中央経済社(ISBN 978-4-502-49501-4)。
守島基博・島貫智行(2023)『グラフィック ヒューマン・リソース・マネジメント』サイエンス社(ISBN 978-4-88384-364-0)。
西村孝史・島貫智行・西岡由美(2022)『1からの人的資源管理』碩学会(ISBN 978-4-502-40701-7)。
平野光俊・江夏幾多郎(2018)『人事管理:人と企業、ともに生きるために』有斐閣(ISBN 978-4-641-15047-8)。

■履修上の注意

発表担当者を定めるため、初回の授業には必ず参加してください。
発表スライドはLMSを使用して配布しますので、授業の際には閲覧用のノートPC等の電子機器類を持参してください。
オフィス・アワーについては開講時に指示します。

■この科目の特色

1. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業に該当

この授業では、受講者による発表と、その内容に基づくディスカッションを中心とした双方向の形式を取り入れています。

科目名

商業史特講

担当教員

齋藤 善之

■テーマ

商業の歴史(原始から近代まで)

■講義内容

私たちの身近な地域である仙台や宮城の商業地区はどのようにして作られ現在に至ったのか。なにげない町並みや風景にも先人たちが築き残した痕跡が至る処に残されている。この講義では計画的に作られた城下町仙台とそこでの商人のあゆみを中心に、明治時代までの経済を担った地域の商人群像を見ていくことにしたい。

■達成目標

地域の商業史について具体的事例を提示して説明できるようになること。

■授業計画

第1回

【事前学修】 キーワード「グレートジャーニー」について調べる

【授業内容】 商業以前のこと(原始時代)

【事後学修】 配布プリントの見直しと確認

第2回

【事前学修】 キーワード「三内丸山遺跡」について調べる

【授業内容】 交換の始まり(縄文時代)

【事後学修】 配布プリントの見直しと確認

第3回

【事前学修】 キーワード「富沢遺跡」について調べる

【授業内容】 農耕と文明(弥生時代)

【事後学修】 配布プリントの見直しと確認

第4回

【事前学修】 キーワード「多賀城」について調べる

【授業内容】 国家と市場の成立(古墳時代)

【事後学修】 配布プリントの見直しと確認

第5回

【事前学修】 キーワード「和同開珎」について調べる

【授業内容】 貨幣の誕生

【事後学修】 配布プリントの見直しと確認

第6回

【事前学修】 キーワード「奥州藤原氏」について調べる

【授業内容】 東北の道と交易(古代から中世へ)

【事後学修】 配布プリントの見直しと確認

第7回

【事前学修】 キーワード「一遍聖絵」について調べる

【授業内容】 市場の情景(中世)

【事後学修】 配布プリントの見直しと確認

第8回

【事前学修】 キーワード「暖簾」について調べる

【授業内容】 のれん・看板・屋号(戦国時代)

【事後学修】 配布プリントの見直しと確認

第9回

【事前学修】 キーワード「芭蕉の辻」について調べる

【授業内容】 仙台北下町の誕生(近世初期)

【事後学修】 配布プリントの見直しと確認

第10回

- 【事前学修】 キーワード「仙台の御譜代町」について調べる
- 【授業内容】 仙台北下の屋敷割と商家の暮らし
- 【事後学修】 配布プリントの見直しと確認

第11回

- 【事前学修】 キーワード「仙台海原町の青物市場」について調べる
- 【授業内容】 仙台の青物と五十集の流通
- 【事後学修】 配布プリントの見直しと確認

第12回

- 【事前学修】 キーワード「藤崎三郎助」について調べる
- 【授業内容】 仙台領の米の道一北上川と貞山堀一
- 【事後学修】 配布プリントの見直しと確認

第13回

- 【事前学修】 キーワード「八木久兵衛」について調べる
- 【授業内容】 仙台商人の実像一八木家と藤崎一
- 【事後学修】 配布プリントの見直しと確認

第14回

- 【事前学修】 キーワード「七十七銀行」について調べる
- 【授業内容】 七十七銀行の歴史
- 【事後学修】 配布プリントの見直しと確認

第15回

- 【事前学修】 キーワード「七福神」につじて調べる
- 【授業内容】 商業神の世界
- 【事後学修】 配布プリントの見直しと確認

■成績評価方法・基準

ミニレポート(80%)授業参加態度(20%)評価の基準はルーブリック等の形で授業時に公開する。

■学修に必要な準備

提示されたキーワードについて調べておくこと

■関連して受講することが望ましい科目

特になし

■テキスト

なし

■参考文献

講義のなかで提示します。

■履修上の注意

オフィス・アワー等については開講時に指示する

■この科目の特色

1. 地域志向科目(毎回のミニレポート)
2. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業に該当

本授業では、講義を行っている途中でも受講者による授業内容についての質問を随時受け付けており、その内容によっては単に回答するのみならず、受講者全員による討論に発展させることがある。

科目名

ホスピタリティ・マネジメント特講

担当教員

森下 俊一郎

■テーマ

観光分野におけるおもてなしとホスピタリティのマネジメント

■講義内容

まず、わが国の宿泊業の事例を概観することによりホスピタリティ・マネジメントの全体像の理解を深める。次いで、地域観光や観光地経営についての諸論点の解説や議論を通じて、わが国特有の観光サービスの課題について考える。この授業は受講生が発表・報告する機会を設けた対面授業(アクティブ・ラーニング)で行う。

■達成目標

- ①ホスピタリティ・マネジメントの全体像を理解する
- ②地域観光や観光地経営の大枠について理解する
- ③の訪日外国人観光客への対応において生じる経営課題やビジネス機会について理解する

■授業計画

第1回

- 【事前学修】 テキスト(森下,2023)の1章を読む
- 【授業内容】 イントロダクション、おもてなしとマネジメント
- 【事後学修】 今回の授業の内容と感想をレポートにまとめる

第2回

- 【事前学修】 テキスト(森下,2023)の指定箇所を読み、内容をレジメにまとめる
- 【授業内容】 サービス、ホスピタリティ、おもてなしについて、それぞれの共通点と違い
- 【事後学修】 今回の授業の内容と感想をレポートにまとめる

第3回

- 【事前学修】 テキスト(森下,2023)の指定箇所を読み、内容をレジメにまとめる
- 【授業内容】 おもてなしやホスピタリティの理念の醸成とマネジメント
- 【事後学修】 今回の授業の内容と感想をレポートにまとめる

第4回

- 【事前学修】 テキスト(森下,2023)の指定箇所を読み、内容をレジメにまとめる
- 【授業内容】 優れた従業員のおもてなしやホスピタリティの知識の共有と創造
- 【事後学修】 今回の授業の内容と感想をレポートにまとめる

第5回

- 【事前学修】 テキスト(森下,2023)の指定箇所を読み、内容をレジメにまとめる
- 【授業内容】 外国人客へのおもてなしやホスピタリティ、そのマネジメント
- 【事後学修】 今回の授業の内容と感想をレポートにまとめる

第6回

- 【事前学修】 テキスト(森下,2023)の指定箇所を読み、各自の事例をレジメにまとめる
- 【授業内容】 これまでの授業のまとめと各自の事例報告
- 【事後学修】 今回の授業の内容と感想をレポートにまとめる

第7回

- 【事前学修】 テキスト(高橋,2024)の指定箇所を読み、内容をレジメにまとめる
- 【授業内容】 観光地の経営とマーケティング
- 【事後学修】 今回の授業の内容と感想をレポートにまとめる

第8回

- 【事前学修】 テキスト(高橋,2024)の指定箇所を読み、内容をレジメにまとめる
- 【授業内容】 観光資源の特徴と地域の個性づくり
- 【事後学修】 今回の授業の内容と感想をレポートにまとめる

第9回

- 【事前学修】 テキスト(高橋,2024)の指定箇所を読み、内容をレジメにまとめる

- 【授業内容】 観光市場に向けた戦略とブランドづくり
- 【事後学修】 今回の授業の内容と感想をレポートにまとめる

第10回

- 【事前学修】 テキスト(高橋,2024)の指定箇所を読み、内容をレジメにまとめる
- 【授業内容】 観光地のプロモーション
- 【事後学修】 今回の授業の内容と感想をレポートにまとめる

第11回

- 【事前学修】 テキスト(高橋,2024)の指定箇所を読み、各自の事例をレジメにまとめる
- 【授業内容】 観光地経営とDX、各自の事例報告
- 【事後学修】 今回の授業の内容と感想をレポートにまとめる

第12回

- 【事前学修】 テキスト(高橋,2024)の指定箇所を読み、内容をレジメにまとめる
- 【授業内容】 自治体の観光政策
- 【事後学修】 今回の授業の内容と感想をレポートにまとめる

第13回

- 【事前学修】 テキスト(高橋,2024)の指定箇所を読み、内容をレジメにまとめる
- 【授業内容】 ツーリズムクラスターの形成施策
- 【事後学修】 今回の授業の内容と感想をレポートにまとめる

第14回

- 【事前学修】 テキスト(高橋,2024)の指定箇所を読み、内容をレジメにまとめる
- 【授業内容】 地域エコシステム
- 【事後学修】 今回の授業の内容と感想をレポートにまとめる

第15回

- 【事前学修】 今回の授業を振り返り、各自のテーマに沿った課題レポートを作成する
- 【授業内容】 授業のまとめ、課題レポートの発表
- 【事後学修】 課題レポートの発表時出た議論を踏まえて、レポートを加筆修正する

■成績評価方法・基準

講義における発表内容とレジメ(60%)、課題レポート(40%)を基に総合的に評価する(具体的な評価基準は、授業時に公開する)。
なお、欠席が3回を超える場合には、単位取得の資格を失う場合がある。

■学修に必要な準備

授業で指示された予習・復習をきちんと行う。
LMSを活用した授業を実施する。

■関連して受講することが望ましい科目

経営学関連科目

■テキスト

森下俊一郎(2023)『おもてなしの理念、知識、異文化のマネジメント』晃洋書房(978-4771037144)
高橋一夫(2024)『DMOと観光行政のための マーケティングとマネジメント』学芸出版社(978-4761529154)

■参考文献

授業中に指示する

■履修上の注意

オフィスアワーに代わり、LMSの機能を活用する。なお、受講者の数、バックグラウンド、希望等により授業の内容と進捗を調整することがある。

■この科目の特色

1. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業 および 2. 実務家教員や実務家による授業に該当

本授業では、受講者によるグループディスカッションや発表を中心とした双方向の形式を取り入れています。
実務経験や事例に基づくケーススタディを授業の一部に用いて、実践的な理解の促進を図っています。

科目名

マーケティング特講

担当教員

李 楊

■テーマ

マーケティングとデジタル時代

■講義内容

マーケティングは企業をはじめ様々な組織にとって必要不可欠な活動であるが、その内容は多岐にわたり、全体像への理解はなかなかされない。本講義はマーケティングに関する基礎的な考え方と視点、重要理論の紹介を起点とする。その後、デジタル化が急速に進む現代においてのマーケティングの課題と対応の変化について紹介し、理論と研究の両面から理解を深める。この授業は対面授業として行い、講義とディスカッションを結合する形で進める。

■達成目標

マーケティングの全体像を理解し、重要な概念・理論・研究手法についての理解を深める。
デジタル時代に特有なマーケティングの課題と最新研究についての理解を深める。

■授業計画

第1回

【事前学修】 日常生活で見られるマーケティングの実例を考える。

【授業内容】 オリエンテーションと概論：マーケティングとはなにか、どういう問題を扱うか

【事後学修】 講義内容を復習し、講義内容への理解を深める。

第2回

【事前学修】 前回の授業で提示された資料やテキストの内容を確認し、分からない点を把握しておく。

【授業内容】 マーケティングの考え方とエッセンス：志向性と本質的な問題；価値とマネージメントプロセス

【事後学修】 講義内容を復習し、講義内容への理解を深める。

第3回

【事前学修】 前回の授業で提示された資料やテキストの内容を確認し、分からない点を把握しておく。

【授業内容】 マーケティングのための戦略的視点：戦略的にマーケティングすることの重要性と焦点

【事後学修】 講義内容を復習し、講義内容への理解を深める。

第4回

【事前学修】 前回の授業で提示された資料やテキストの内容を確認し、分からない点を把握しておく。

【授業内容】 マーケティングの環境と環境分析：SWOT分析と3C分析

【事後学修】 講義内容を復習し、講義内容への理解を深める。

第5回

【事前学修】 前回の授業で提示された資料やテキストの内容を確認し、分からない点を把握しておく。

【授業内容】 消費者の理解（1）

【事後学修】 講義内容を復習し、講義内容への理解を深める。

第6回

【事前学修】 前回の授業で提示された資料やテキストの内容を確認し、分からない点を把握しておく。

【授業内容】 消費者の理解（2）

【事後学修】 講義内容を復習し、講義内容への理解を深める。

第7回

【事前学修】 前回の授業で提示された資料やテキストの内容を確認し、分からない点を把握しておく。

【授業内容】 マーケティング・リサーチの概要と測定方法

【事後学修】 講義内容を復習し、講義内容への理解を深める。

第8回

【事前学修】 前回の授業で提示された資料やテキストの内容を確認し、分からない点を把握しておく。

【授業内容】 セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング

【事後学修】 講義内容を復習し、講義内容への理解を深める。

第9回

【事前学修】 前回の授業で提示された資料やテキストの内容を確認し、分からない点を把握しておく。

【授業内容】 マーケティング・ミックス：製品と価格、コミュニケーションと流通のマネージメント

【事後学修】 講義内容を復習し、講義内容への理解を深める。

第10回

【事前学修】 前回の授業で提示された資料やテキストの内容を確認し、分からない点を把握しておく。

【授業内容】 デジタル時代のマーケティングの課題

【事後学修】 講義内容を復習し、講義内容への理解を深める。

第11回

【事前学修】 前回の授業で提示された資料やテキストの内容を確認し、分からない点を把握しておく。

【授業内容】 テクノロジーとマーケティング

【事後学修】 講義内容を復習し、講義内容への理解を深める。

第12回

【事前学修】 前回の授業で提示された資料やテキストの内容を確認し、分からない点を把握しておく。

【授業内容】 データドリブン・マーケティング

【事後学修】 講義内容を復習し、講義内容への理解を深める。

第13回

【事前学修】 前回の授業で提示された資料やテキストの内容を確認し、分からない点を把握しておく。

【授業内容】 コンテクスチュアル・マーケティングと感覚マーケティング

【事後学修】 講義内容を復習し、講義内容への理解を深める。

第14回

【事前学修】 前回の授業で提示された資料やテキストの内容を確認し、分からない点を把握しておく。

【授業内容】 マーケティングと社会：時代や社会規範からの要請

【事後学修】 講義内容を復習し、講義内容への理解を深める。

第15回

【事前学修】 これまで学んできたことを見直し、重要なキーワードや内容を覚える。

【授業内容】 まとめ：授業全体をまとめ、改めてマーケティングに関する重要な概念や理論、方法を振り返る

【事後学修】 これまでの学習内容を復習し、今後マーケティングの関連分野についての学習をする際の優先課題や方向性を考える。

■成績評価方法・基準

- ・講義中の発言と議論の状況 50%
- ・各回のリアクションペーパーの回答 50%

■学修に必要な準備

実際の調査や研究の紹介を交えて授業を進行することがあるため、統計に関する基礎的な知識を持っていることが望ましい。

■関連して受講することが望ましい科目

経営学や心理学の関連科目

■テキスト

恩蔵直人（監訳）『コラーのマーケティング入門 〔原書14版〕』丸善出版 ISBN:9784621306772

■参考文献

池尾恭一ら（著）『マーケティング』有斐閣 New Liberal Arts Selection. ISBN: 9784641053731;
フィリップ・コラーら（著）『コラーのマーケティング5.0 デジタル・テクノロジー時代の革新戦略』朝日新聞出版社. ISBN:9784022518187
他の参考文献は授業進行中に随時提示する。

■履修上の注意

■この科目の特色

1. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業に該当

本授業では、担当教員が事前に提示した論点について、各回の授業前にレポート作成を行ってもらったうえで、授業中には教員・受講生間でディスカッションを行うという双方向の形式を取り入れています。

科目名

消費者行動論特講

担当教員

工藤 大介

■テーマ

消費者心理と購買行動の関連を知る

■講義内容

消費者行動および消費者心理学に関連する論文を読み、消費者を購買へと導く要因、そして消費者が購買を忌避する心理について学ぶことを目的とする。マーケティングや商品開発においては、消費者の購買に対する心理を知ることともに、それを知るための、調査・リサーチの知識も必要といえる。そこで本授業では、担当教員が提示する日本語・外国語論文を読み、ディスカッションを通じて消費者行動・消費者心理に関する知識を深めていく。なお、本授業では、各回で講読する論文に関して、教員および受講生間でディスカッションを行う、アクティブラーニング形式で実施する。

■達成目標

- ①消費者行動および消費者心理に関する基礎的な理論、知見について説明することができる。
- ②学術論文を講読し、要点を押さえ、端的に説明することができる。
- ③学術研究に対し、改善点および発展形を考え、指摘することができる。

■授業計画

第1回

- 【事前学修】 シラバスを熟読し、授業内容、達成目標および、授業のスケジュールについて理解する。
- 【授業内容】 オリエンテーション(自己紹介、授業の進め方・成績評価に関する説明、論文検索および論文の構成、論文購読の方法に関する講義)
- 【事後学修】 第1回授業の振り返り。

第2回

- 【事前学修】 課題論文を読み、内容について把握する。
- 【授業内容】 論文購読(日本語論文①):論文の各セクションの詳細を各受講者が報告し、内容についてコメント・ディスカッションを行う。
- 【事後学修】 課題論文の内容および、議論に関する振り返りを行う。

第3回

- 【事前学修】 課題論文を読み、内容について把握する。
- 【授業内容】 論文購読(日本語論文②):論文の各セクションの詳細を各受講者が報告し、内容についてコメント・ディスカッションを行う。
- 【事後学修】 課題論文の内容および、議論に関する振り返りを行う。

第4回

- 【事前学修】 課題論文を読み、内容について把握する。
- 【授業内容】 論文購読(日本語論文③):論文の各セクションの詳細を各受講者が報告し、内容についてコメント・ディスカッションを行う。
- 【事後学修】 課題論文の内容および、議論に関する振り返りを行う。

第5回

- 【事前学修】 課題論文を読み、内容について把握する。
- 【授業内容】 論文購読(日本語論文④):論文の各セクションの詳細を各受講者が報告し、内容についてコメント・ディスカッションを行う。
- 【事後学修】 課題論文の内容および、議論に関する振り返りを行う。

第6回

- 【事前学修】 課題論文を読み、内容について把握する。
- 【授業内容】 論文購読(日本語論文⑤):論文の各セクションの詳細を各受講者が報告し、内容についてコメント・ディスカッションを行う。
- 【事後学修】 課題論文の内容および、議論に関する振り返りを行う。

第7回

- 【事前学修】 課題論文を読み、内容について把握する。
- 【授業内容】 論文購読(日本語論文⑥):論文の各セクションの詳細を各受講者が報告し、内容についてコメント・ディスカッションを行う。
- 【事後学修】 課題論文の内容および、議論に関する振り返りを行う。

第8回

- 【事前学修】 課題論文を読み、内容について把握する。
- 【授業内容】 論文購読(日本語論文⑦):論文の各セクションの詳細を各受講者が報告し、内容についてコメント・ディスカッションを行う。
- 【事後学修】 課題論文の内容および、議論に関する振り返りを行う。

第9回

- 【事前学修】 課題論文を読み、内容について把握する。
- 【授業内容】 論文購読(外国語論文①):論文の各セクションの詳細を各受講者が報告し、内容についてコメント・ディスカッションを行う。

【事後学修】 課題論文の内容および、議論に関する振り返りを行う。

第10回

【事前学修】 課題論文を読み、内容について把握する。

【授業内容】 論文購読(外国語論文②):論文の各セクションの詳細を各受講者が報告し、内容についてコメント・ディスカッションを行う。

【事後学修】 課題論文の内容および、議論に関する振り返りを行う。

第11回

【事前学修】 課題論文を読み、内容について把握する。

【授業内容】 論文購読(外国語論文③):論文の各セクションの詳細を各受講者が報告し、内容についてコメント・ディスカッションを行う。

【事後学修】 課題論文の内容および、議論に関する振り返りを行う。

第12回

【事前学修】 課題論文を読み、内容について把握する。

【授業内容】 論文購読(外国語論文④):論文の各セクションの詳細を各受講者が報告し、内容についてコメント・ディスカッションを行う。

【事後学修】 課題論文の内容および、議論に関する振り返りを行う。

第13回

【事前学修】 課題論文を読み、内容について把握する。

【授業内容】 論文購読(外国語論文⑤):論文の各セクションの詳細を各受講者が報告し、内容についてコメント・ディスカッションを行う。

【事後学修】 課題論文の内容および、議論に関する振り返りを行う。

第14回

【事前学修】 課題論文を読み、内容について把握する。

【授業内容】 論文購読(外国語論文⑥):論文の各セクションの詳細を各受講者が報告し、内容についてコメント・ディスカッションを行う。

【事後学修】 課題論文の内容および、議論に関する振り返りを行う。

第15回

【事前学修】 課題論文を読み、内容について把握する。

【授業内容】 論文購読(外国語論文⑦):論文の各セクションの詳細を各受講者が報告し、内容についてコメント・ディスカッションを行う。

【事後学修】 課題論文の内容および、議論に関する振り返りを行う。

■成績評価方法・基準

授業時間内での論文に関する発表(30%)、ディスカッションでの発言(20%)、期末レポート(50%)で総合的に評価する。期末レポートの評価構成については、文章表現(30%)、レポート形式の順守(20%)、論理性(20%)、議論・考察の深さと一貫性(30%)とする。

■学修に必要な準備

消費者動向調査やマーケティング・リサーチ結果に関する報告やニュースに目を向けること。各メディアやSNSにおいて、新しい商品や広告の動向をチェックしておくこと。なお、本授業では、論文購読にあたり、生成AIの積極的な利用を推奨する。そのため、生成AIについて、最低限の使用方法は押さえておくこと。

■関連して受講することが望ましい科目

特になし。

■テキスト

開講時に指示する。

■参考文献

- ①青木幸弘・新倉貴士・佐々木壮太郎・松下光司(2012)『消費者行動論』有斐閣アルマ。ISBN:978-4641124639
- ②山田一成・池内裕美(編)(2018)『消費者心理学』勁草書房。ISBN:978-4326251285
- ③星野崇宏・上田雅夫(2018)『マーケティング・リサーチ入門』有斐閣アルマ。ISBN:978-4641221161
- ④池尾恭一・青木幸弘・南知恵子・井上哲浩(2010)『マーケティング』有斐閣。ISBN:978-4641053731

■履修上の注意

- ・遅刻・欠席には注意して下さい(公欠の場合にも事前に連絡をするようにして下さい)。
- ・受講態度に問題があると判断した場合(遅刻・欠席が多い、事前学習を行わない、私語がやまない等)には単位取得の資格を失うなどの対応をとる可能性がありますので注意して下さい。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大によって、実施形態・評価方法が多少変更になる可能性があります。その際には大学の指示に基づき実施します。
- ・オフィス・アワーについてはLMSを利用して行います。
- ・担当者の連絡先については開講時にメールアドレスを指示します。

■この科目の特色

1. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業に該当

本授業では、担当教員および、受講者によるグループディスカッションを中心とした双方向授業の形式を取入れています。

科目名

ファイナンス特講

担当教員

松村 尚彦

■テーマ

証券価格は合理的に形成されるのか

■講義内容

現代ファイナンス理論の基礎となる効率的市場仮説をめぐるのは、様々な批判が展開されている。本講義ではこのテーマに関連する文献を輪読しながら、合理的期待仮説、CAPMアノマリー、行動ファイナンスなどについて理解を深め、最近のファイナンス理論の動向について考えていくこととする。本講義は受講者による発表とディスカッションを中心とした【アクティブ・ラーニング科目】として行う。

■達成目標

- ①証券の価格形成に関する理論を理解することができる。
- ②CAPMアノマリーをめぐる論争に関する見解をレポートにまとめることができる。

■授業計画

第1回

- 【事前学修】『新証券投資論①理論編』P.3-12を読みポイントをとめる。内容については講義でフィードバックする。
- 【授業内容】現代ファイナンス理論の概要
- 【事後学修】『新証券投資論①理論編』P.3-12を参考に授業内容を復習する。

第2回

- 【事前学修】『新証券投資論①理論編』P.33-40を読みポイントをとめる。内容については講義でフィードバックする。
- 【授業内容】ポートフォリオ理論(リターンとリスク)
- 【事後学修】『新証券投資論①理論編』P.33-40を参考に授業内容を復習する。

第3回

- 【事前学修】『新証券投資論①理論編』P.41-64を読みポイントをとめる。内容については講義でフィードバックする。
- 【授業内容】ポートフォリオ理論(投資可能集合と効率的フロンティア)
- 【事後学修】『新証券投資論①理論編』P.41-64を参考に授業内容を復習する。

第4回

- 【事前学修】『新証券投資論①理論編』P.65-76を読みポイントをとめる。内容については講義でフィードバックする。
- 【授業内容】CAPM (マーケットポートフォリオの効率性)
- 【事後学修】『新証券投資論①理論編』P. 65-76を参考に授業内容を復習する。

第5回

- 【事前学修】『新証券投資論①理論編』P. 77-90を読みポイントをとめる。内容については講義でフィードバックする。
- 【授業内容】CAPM (リスクの価格理論)
- 【事後学修】『新証券投資論①理論編』P. 77-90を参考に授業内容を復習する。

第6回

- 【事前学修】『新証券投資論①理論編』P.90-106を読みポイントをとめる。内容については講義でフィードバックする。
- 【授業内容】CAPM (実証分析)
- 【事後学修】『新証券投資論①理論編』P. 90-106を参考に授業内容を復習する。

第7回

- 【事前学修】『新証券投資論①理論編』P.235-240を読みポイントをとめる。内容については講義でフィードバックする。
- 【授業内容】市場の効率性(効率性と期待リターン)
- 【事後学修】『新証券投資論①理論編』P. 235-240を参考に授業内容を復習する。

第8回

- 【事前学修】『新証券投資論①理論編』P.240-246を読みポイントをとめる。内容については講義でフィードバックする。
- 【授業内容】市場の効率性(効率性の数学的表現)
- 【事後学修】『新証券投資論①理論編』P.240-246を参考に授業内容を復習する。

第9回

- 【事前学修】『新証券投資論①理論編』P.246-262を読みポイントをとめる。内容については講義でフィードバックする。
- 【授業内容】市場の効率性(CAPMアノマリー)
- 【事後学修】『新証券投資論①理論編』P.246-262を参考に授業内容を復習する。

第10回

- 【事前学修】 『合理的市場という神話』P.61-P.140を読みポイントをまとめる。内容については講義でフィードバックする。
- 【授業内容】 合理的な市場という考え方が確立した流れを理解する。
- 【事後学修】 『合理的市場という神話』P.61-p.140を参考に授業内容を復習する。

第11回

- 【事前学修】 『合理的市場という神話』P.225-p.313を読みポイントをまとめる。内容については講義でフィードバックする。
- 【授業内容】 行動経済学による・判について
- 【事後学修】 『合理的市場という神話』p.225-p.313を参考に授業内容を復習する

第12回

- 【事前学修】 『合理的市場という神話』P.317-p.396を読みポイントをまとめる。内容については講義でフィードバックする。
- 【授業内容】 合理的市場という考え方がどう変わってきたか
- 【事後学修】 『合理的市場という神話』P.317-p.396を参考に授業内容を復習する。

第13回

- 【事前学修】 レポートの構成を検討する。内容については講義でフィードバックする。
- 【授業内容】 レポート作成指導(レポートの構成を検討する)
- 【事後学修】 授業での指摘を元にレポートの構成を再検討する。

第14回

- 【事前学修】 レポートのドラフトを準備する。内容については講義でフィードバックする。
- 【授業内容】 レポート作成指導(ドラフトの修正)
- 【事後学修】 授業での指摘を元にレポートのドラフトを再修正する。

第15回

- 【事前学修】 最終レポートを準備する。内容については講義でフィードバックする。
- 【授業内容】 レポート作成指導(最終レポート作成)
- 【事後学修】 授業での指摘を元に最終レポートを完成させる。

■成績評価方法・基準

授業への参加と貢献(40%)、レポート(60%)。評価基準はルーブリック等の形で授業時に公開する。なお3回を超えて欠席した場合には、単位の修得資格を失う。

■学修に必要な準備

現代ファイナンス理論の基礎(ポートフォリオ理論、CAPMなど)、統計学(推定と検定)、英文読解力があることが好ましい。

■関連して受講することが望ましい科目

特になし

■テキスト

小林孝雄、芹田敏夫(2011)『新証券投資論①理論編』日本経済新聞社 ISBN:978-453213372
ジャスティン・フォックス(2010)『合理的市場という神話』東洋経済新報社、ISBN:978-4492654361

■参考文献

教員作成の資料を配付

■履修上の注意

- ①現代ファイナンス理論の基礎(ポートフォリオ理論、CAPMなど)英文読解力があることが好ましいが、難しい場合には教員に相談すること。
- ②オフィス・アワーについては授業開始時に告知する。

■この科目の特色

1. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業 および
2. 実務家教員や実務家による授業に該当

本授業では、受講者によるグループディスカッションや発表を中心とした双方向の形式を取り入れています。実務経験に基づくケーススタディを用いて、実践的な理解の促進を図っています。

科目名

財務会計論特講Ⅰ

担当教員

小野 慎一郎

■テーマ

財務会計の基本論点

■講義内容

この授業では、株式会社の財務会計における基本論点を網羅的に学ぶ。会計スペシャリストとして活躍するためには、財務諸表の各項目に関する会計処理方法を知っているだけでは不十分である。会計処理方法の知識に加えて、その方法の基礎にある考え方や、その方法が現行の会計基準で採用されている理由も理解しておく必要がある。また、それらの内容を、説得力のある形で他人に説明する能力も求められる。そこでこの授業では、担当教員が提示した論点について、レポート作成とディスカッションを行ってもらうことにより、上記の知識・能力を高めていく。この授業は、各回で取り上げるテーマに関して、教員・受講生でディスカッションなどを行うアクティブ・ラーニング科目である。

■達成目標

- ① 財務会計の基本論点に関して、現行の会計基準で規定されている内容と、その規定の背景や根拠を説明できる。
- ② パラグラフ・ライティングなどが適切になされた、説得力のある文章を作成できる。
- ③ 財務会計に関する他人の文章やプレゼンテーションに対して、優れている点と改善するとさらに良くなる点を複数指摘できる。

■授業計画

第1回

【事前学修】 シラバスを熟読する。

ガイダンス(自己紹介、授業内容・授業の進め方・成績評価方法などの説明、財務会計論の勉強方法や基本書・会計法規集の使い方に関する講義)

【授業内容】 【事後学修】第1回授業の振り返りを行う。

【事後学修】 第1回授業の振り返りを行う。

第2回

【事前学修】 テキスト(1)の第1章「財務会計の機能と制度」pp.1-20を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。

【授業内容】 財務会計の機能と制度(会計の意義と領域、財務会計の機能、企業会計への法規制)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション

【事後学修】 第2回授業の振り返りを行う。

第3回

【事前学修】 テキスト(1)の第2章「利益計算の仕組み」pp.21-46を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。

【授業内容】 利益計算の仕組み(企業活動と財務諸表、複式簿記の構造、利益計算と財務諸表)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション

【事後学修】 第3回授業の振り返りを行う。

第4回

【事前学修】 テキスト(1)の第3章「会計理論と会計基準」pp.47-55とテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。

【授業内容】 会計理論と会計基準①(会計基準の必要性、会計基準の設定と問題点)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション

【事後学修】 第4回授業の振り返りを行う。

第5回

【事前学修】 テキスト(1)の第3章「会計理論と会計基準」pp.55-70とテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。

【授業内容】 会計理論と会計基準②(演繹的アプローチの展開、企業会計原則の一般原則、会計情報の質的特性)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション

【事後学修】 第5回授業の振り返りを行う。

第6回

【事前学修】 テキスト(1)の第4章「利益測定と資産評価の基礎概念」pp.71-79、テキスト(1)の第12章「財務諸表の作成と公開」pp.299-304、およびテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。

【授業内容】 利益測定と資産評価の基礎概念①(現金主義会計と発生主義会計、発生主義会計の基本原則、包括利益の測定と表示)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション

【事後学修】 第6回授業の振り返りを行う。

第7回

【事前学修】 テキスト(1)の第4章「利益測定と資産評価の基礎概念」pp.79-90とテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。

【授業内容】 利益測定と資産評価の基礎概念②(資産評価の基準)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション

【事後学修】 第7回授業の振り返りを行う。

第8回

【事前学修】 テキスト(1)の第5章「現金預金と有価証券」pp.91-105とテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。

【授業内容】 現金預金と有価証券①(資金運用活動の資産と収益、現金および預金、有価証券)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション

【事後学修】 第8回授業の振り返りを行う。

第9回

- 【事前学修】 テキスト(1)の第5章「現金預金と有価証券」pp.105-109とテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。
- 【授業内容】 現金預金と有価証券②(金融資産の発生と消滅の認識、デリバティブとヘッジ会計)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション
- 【事後学修】 第9回授業の振り返りを行う。

第10回

- 【事前学修】 テキスト(1)の第5章「現金預金と有価証券」pp.109-118、テキスト(1)の第6章「売上高と売上債権」pp.119-124、およびテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。
- 【授業内容】 現金預金と有価証券③(キャッシュ・フロー計算書)・売上高と売上債権①(営業循環における収益の認識、収益認識に関する会計基準)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション
- 【事後学修】 第10回授業の振り返りを行う。

第11回

- 【事前学修】 テキスト(1)の第6章「売上高と売上債権」pp.124-139とテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。
- 【授業内容】 売上高と売上債権②(契約と履行義務の識別、取引価格の算定と配分、履行義務の充足による収益の認識、一時点での収益認識、一定期間にわたる収益認識)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション
- 【事後学修】 第11回授業の振り返りを行う。

第12回

- 【事前学修】 テキスト(1)の第6章「売上高と売上債権」pp.139-144、テキスト(1)の第7章「棚卸資産と売上原価」pp.145-149、およびテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。
- 【授業内容】 売上高と売上債権③(売上債権)・棚卸資産と売上原価①(棚卸資産の範囲と区分、棚卸資産の取得原価)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション
- 【事後学修】 第12回授業の振り返りを行う。

第13回

- 【事前学修】 テキスト(1)の第7章「棚卸資産と売上原価」pp.149-164とテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。
- 【授業内容】 棚卸資産と売上原価②(棚卸資産の原価配分、払出単価の決定、棚卸資産の期末評価)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション
- 【事後学修】 第13回授業の振り返りを行う。

第14回

- 【事前学修】 テキスト(1)の第8章「有形固定資産と減価償却」pp.165-186とテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。
- 【授業内容】 有形固定資産と減価償却①(固定資産の範囲と区分、有形固定資産の取得原価、減価償却)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション
- 【事後学修】 第14回授業の振り返りを行う。

第15回

- 【事前学修】 テキスト(1)の第8章「有形固定資産と減価償却」pp.186-198とテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。
- 【授業内容】 有形固定資産と減価償却②(固定資産の期末評価、リース会計)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション
- 【事後学修】 第15回授業の振り返りを行う。

■成績評価方法・基準

毎週提出する課題レポート(70%)、コメントやディスカッションへの参加度(30%)により総合的に評価する(具体的な評価基準はルーブリックなどの形で授業時に公開する)。

■学修に必要な準備

日商簿記検定2級合格レベルの商業簿記の知識があることを前提として授業を進める。なお、各回の授業前にテキストを読んで課題レポートを作成する必要がある。

■関連して受講することが望ましい科目

財務会計論特講Ⅱ、国際会計論特講Ⅰ・Ⅱ、財務諸表分析特講

■テキスト

- (1) 桜井久勝『財務会計講義(2025年4月時点の最新版)』中央経済社(ISBN:未定)。
- (2) 中央経済社(編)『新版 会計法規集(2025年4月時点の最新版)』中央経済社(ISBN:未定)。

■参考文献

桜井久勝『財務会計の重要論点』税務経理協会、2019年(ISBN:9784419066161)。
佐藤信彦ほか『スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ 基本論点編(第17版)』中央経済社、2024年(ISBN:9784502501418)。
佐藤信彦ほか『スタンダードテキスト財務会計論Ⅱ 応用論点編(第17版)』中央経済社、2024年(ISBN:9784502501517)。
山本達司『財務会計のファンダメンタルズ』中央経済社、2023年(ISBN:9784502465215)。

■履修上の注意

授業開始前までにLMSを使えるようにしておくこと。
オフィス・アワーに代わりLMSを使用する。

■この科目の特色

1. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業に該当

本授業では、担当教員が事前に提示した論点について、各回の授業前にレポート作成を行ってもらったうえで、授業中には教員・受講生間でディスカッションを行うという双方向の形式を取り入れています。

科目名

財務会計論特講Ⅱ

担当教員

小野 慎一郎

■テーマ

財務会計の応用論点

■講義内容

この授業では、株式会社の財務会計における応用論点を網羅的に学ぶ。会計スペシャリストとして活躍するためには、財務諸表の各項目に関する会計処理方法を知っているだけでは不十分である。会計処理方法の知識に加えて、その方法の基礎にある考え方や、その方法が現行の会計基準で採用されている理由も理解しておく必要がある。また、それらの内容を、説得力のある形で他人に説明する能力も求められる。そこでこの授業では、担当教員が提示した論点について、レポート作成とディスカッションを行ってもらうことにより、上記の知識・能力を高めていく。この授業は、各回で取り上げるテーマに関して、教員・受講生でディスカッションなどを行うアクティブ・ラーニング科目である。

■達成目標

- ① 財務会計の応用論点に関して、現行の会計基準で規定されている内容と、その規定の背景や根拠を説明できる。
- ② パラグラフ・ライティングなどが適切になされた、説得力のある文章を作成できる。
- ③ 財務会計に関する他人の文章やプレゼンテーションに対して、優れている点と改善するとさらに良くなる点を複数指摘できる。

■授業計画

第1回

【事前学修】 シラバスを熟読する。

【授業内容】 ガイダンス(授業内容・授業の進め方・成績評価方法などの説明)、「財務会計論特講Ⅰ」の復習(利益測定と資産評価の基礎概念)

【事後学修】 第1回授業の振り返りを行う。

第2回

【事前学修】 テキスト(1)の第9章「無形固定資産と繰延資産」pp.199-206とテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。

【授業内容】 無形固定資産と繰延資産①(知的財産と研究開発、無形固定資産)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション

【事後学修】 第2回授業の振り返りを行う。

第3回

【事前学修】 テキスト(1)の第9章「無形固定資産と繰延資産」pp.206-216、テキスト(1)の第10章「負債」pp.217-222、およびテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。

【授業内容】 無形固定資産と繰延資産②(繰延資産)・負債①(負債の範囲と区分、引当金)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション

【事後学修】 第3回授業の振り返りを行う。

第4回

【事前学修】 テキスト(1)の第10章「負債」pp.223-241とテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。

【授業内容】 負債②(納税義務と税効果会計、流動負債、社債)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション

【事後学修】 第4回授業の振り返りを行う。

第5回

【事前学修】 テキスト(1)の第10章「負債」pp.241-250とテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。

【授業内容】 負債③(退職給付引当金、資産除去債務、偶発債務)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション

【事後学修】 第5回授業の振り返りを行う。

第6回

【事前学修】 テキスト(1)の第11章「株主資本と純資産」pp.251-263とテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。

【授業内容】 株主資本と純資産①(純資産の構成、払込資本:資本金と資本剰余金)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション

【事後学修】 第6回授業の振り返りを行う。

第7回

【事前学修】 テキスト(1)の第11章「株主資本と純資産」pp.264-288とテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。

【授業内容】 株主資本と純資産②(組織再編:会社の結合と分割、稼得資本:留保利益、純資産の区分表示)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション

【事後学修】 第7回授業の振り返りを行う。

第8回

【事前学修】 テキスト(1)の第12章「財務諸表の作成と公開」pp.289-311とテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。

【授業内容】 財務諸表の作成と公開①(財務諸表の体系、損益計算書、貸借対照表、株主資本等変動計算書)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション

【事後学修】 第8回授業の振り返りを行う。

第9回

【事前学修】 テキスト(1)の第12章「財務諸表の作成と公開」pp.311-321とテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。

【授業内容】 財務諸表の作成と公開②(注記と附属明細表、財務諸表の遡及処理)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション

【事後学修】	第9回授業の振り返りを行う。
第10回	
【事前学修】	テキスト(1)の第12章「財務諸表の作成と公開」pp.321-326、テキスト(1)の第13章「連結財務諸表」pp.327-330、およびテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。
【授業内容】	財務諸表の作成と公開③(期中の財務報告)・連結財務諸表①(連結財務諸表の公表制度)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション
【事後学修】	第10回授業の振り返りを行う。
第11回	
【事前学修】	テキスト(1)の第13章「連結財務諸表」pp.330-337とテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。
【授業内容】	連結財務諸表②(連結財務諸表作成の一般原則、連結決算の一般基準)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション
【事後学修】	第11回授業の振り返りを行う。
第12回	
【事前学修】	テキスト(1)の第13章「連結財務諸表」pp.337-369とテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。
【授業内容】	連結財務諸表③(連結貸借対照表の作成手続、連結損益計算書の作成手続)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション
【事後学修】	第12回授業の振り返りを行う。
第13回	
【事前学修】	テキスト(1)の第13章「連結財務諸表」pp.369-394とテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。
【授業内容】	連結財務諸表④(連結株主資本等変動計算書、持分法、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表の注記)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション
【事後学修】	第13回授業の振り返りを行う。
第14回	
【事前学修】	テキスト(1)の第14章「外貨建取引等の換算」pp.395-406とテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。
【授業内容】	外貨建取引等の換算①(企業活動の国際化と会計問題、換算の諸方法、外貨建取引の換算)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション
【事後学修】	第14回授業の振り返りを行う。
第15回	
【事前学修】	テキスト(1)の第14章「外貨建取引等の換算」pp.406-417とテキスト(2)の関連箇所を読み、教員から事前に指定された論点についてのレポートをMicrosoft Wordで作成して、LMSで提出する(提出物へのフィードバックは授業時に行う)。
【授業内容】	外貨建取引等の換算②(為替予約、在外支店の財務諸表項目の換算、在外子会社等の財務諸表項目の換算)に関する担当者の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、ディスカッション
【事後学修】	第15回授業の振り返りを行う。
■成績評価方法・基準	毎週提出する課題レポート(70%)、コメントやディスカッションへの参加度(30%)により総合的に評価する(具体的な評価基準はルーブリックなどの形で授業時に公開する)。
■学修に必要な準備	日商簿記検定2級合格レベルの商業簿記の知識があり、かつ「財務会計論特講Ⅰ」を履修済みであることを前提として授業を進める。なお、各巨
■関連して受講することが望ましい科目	財務会計論特講Ⅰ、国際会計論特講Ⅰ・Ⅱ、財務諸表分析特講
■テキスト	(1) 桜井久勝『財務会計講義(2025年4月時点の最新版)』中央経済社(ISBN:未定)。 (2) 中央経済社(編)『新版 会計法規集(2025年4月時点の最新版)』中央経済社(ISBN:未定)。
■参考文献	桜井久勝『財務会計の重要論点』税務経理協会、2019年(ISBN:9784419066161)。 佐藤信彦ほか『スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ 基本論点編(第17版)』中央経済社、2024年(ISBN:9784502501418)。 佐藤信彦ほか『スタンダードテキスト財務会計論Ⅱ 応用論点編(第17版)』中央経済社、2024年(ISBN:9784502501517)。 山本達司『財務会計のファンダメンタルズ』中央経済社、2023年(ISBN:9784502465215)。
■履修上の注意	授業開始前までにLMSを使えるようにしておくこと。 オフィス・アワーに代わりLMSを使用する。
■この科目の特色	1. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業に該当 本授業では、担当教員が事前に提示した論点について、各回の授業前にレポート作成を行ってもらったうえで、授業中には教員・受講生間でディスカッションを行うという双方向の形式を取り入れています。

科目名

管理会計論特講

担当教員

佐々木 郁子

■テーマ

マネジメント・コントロール・システムとしての管理会計

■講義内容

学部で学んだ内容についての復習と実務で必要となる管理会計の知識について米国ビジネススクールで用いられているテキストの翻訳書を使用して学びます。講義では、テキストを事前に読んできてもらい、ディスカッションを中心に進めていきます。
双方向型授業

■達成目標

マネジメント・コントロール・システムとしての管理会計の役割を理解し実務で使うことができる。

■授業計画

第1回

【事前学修】 テキストを購入し、目次と前書き、第1章を読み、管理会計の役割についての考えをまとめておく。

【授業内容】 ガイダンス(授業の進め方の説明)第1章の内容についてのディスカッション

【事後学修】 章末問題を解き、内容の理解を深める。

第2回

【事前学修】 第2章を読み、まとめておく。わからない用語は調べておく。

【授業内容】 第2章の内容についての確認と、ディスカッション

【事後学修】 授業内容についてまとめておく。

第3回

【事前学修】 第3章を読み、まとめておく。わからない用語は調べておく。

【授業内容】 第3章の内容についての確認と、ディスカッション

【事後学修】 授業内容についてまとめておく。

第4回

【事前学修】 第4章を読み、まとめておく。わからない用語は調べておく。

【授業内容】 第4章の内容についての確認と、ディスカッション

【事後学修】 授業内容についてまとめておく。

第5回

【事前学修】 第5章を読み、まとめておく。わからない用語は調べておく。

【授業内容】 原価情報についての確認と、ディスカッション

【事後学修】 授業内容についてまとめておく。

第6回

【事前学修】 第5章Appendixを読み、制約理論について調べておく。

【授業内容】 第5章Appendixの内容についての確認と、ディスカッション

【事後学修】 授業内容についてまとめておく。

第7回

【事前学修】 第6章を読み、原価企画と顧客収益性についてまとめておく。わからない用語は調べておく。

【授業内容】 第6章の内容についての確認と、ディスカッション

【事後学修】 授業内容についてまとめておく。

第8回

【事前学修】 第7章を読み、割引現在価値について調べておく。

【授業内容】 時間的価値についての確認と、ディスカッション

【事後学修】 授業内容についてまとめておく。

第9回

【事前学修】 第7章を読み、資本予算意思決定についての例題を読んでおく。わからない用語は調べておく。

【授業内容】 資本予算の意思決定についての確認と、ディスカッション

【事後学修】 授業内容についてまとめておく。

第10回

- 【事前学修】 第8章を読み、予算編成についてまとめておく。わからない用語は調べておく。
- 【授業内容】 予算編成のプロセスについて確認し、ディスカッション
- 【事後学修】 授業内容についてまとめておく。

第11回

- 【事前学修】 第8章を読み、予算管理についてまとめておく。わからない用語は調べておく。
- 【授業内容】 予算管理についての確認、ディスカッション
- 【事後学修】 授業内容についてまとめておく。

第12回

- 【事前学修】 第9章を読み、まとめておく。わからない用語は調べておく。
- 【授業内容】 第9章の内容についての確認と、ディスカッション
- 【事後学修】 授業内容についてまとめておく。

第13回

- 【事前学修】 第10章を読み、分権化についてまとめておく。わからない用語は調べておく。
- 【授業内容】 分権化についてディスカッション
- 【事後学修】 授業内容についてまとめておく。

第14回

- 【事前学修】 第10章を読み、バランススコアカードについてまとめておく。わからない用語は調べておく。
- 【授業内容】 バランススコアカードに関するDVDの視聴および、ディスカッション。レポート課題を課す。
- 【事後学修】 授業内容についてまとめておく。

第15回

- 【事前学修】 第1回から第14回までの内容の確認とレポートの作成
- 【授業内容】 作成したレポートについてそれぞれを発表する
- 【事後学修】 レポートはmanabaでフィードバックするので、その内容について確認する。

■成績評価方法・基準

評価基準はルーブリックの形で授業時に公開する。

■学修に必要な準備

最低限の会計知識と経営学の知識

■関連して受講することが望ましい科目

■テキスト

【原著7版】管理会計のエッセンス(同文館)ISBN9784495191337

■参考文献

■履修上の注意

■この科目の特色

1. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業に該当

本授業では、受講者によるグループディスカッションや発表を中心とした双方向の形式を取り入れています。
米国のビジネススクールで実際に採用されているテキストを用いて、実際に直面しうるケースについてディスカッションをしながら実務に活かせる授業になっています。

科目名

原価計算論特講

担当教員

窪田 嵩哉

■テーマ

管理会計研究の実務への応用

■講義内容

管理会計を含む会計学、経営学は主として企業の活動を分析する学問分野です。それでは、その分野で蓄積された学術的な知見はどれほど実務に還元可能でしょうか。この授業では指定のテキストを輪読しながら、学術的な知見と実務との関わりについて検討していきます。テキストは管理会計研究の知見をとりまとめ、実務への応用について述べたものです。参加者は指定された回において発表資料を作成する必要があります。この授業は双方向型授業です。

■達成目標

既存の管理会計研究の知見について、授業で取り上げた内容を理解し、説明できる

■授業計画

第1回

- 【事前学修】 シラバスの確認
- 【授業内容】 ガイダンス、テキストのイントロダクション
- 【事後学修】 ガイダンス、授業内容の確認

第2回

- 【事前学修】 発表資料の準備
- 【授業内容】 輪読(1章および2章)
- 【事後学修】 授業中に出了疑問と授業中に出题された問題を検討する

第3回

- 【事前学修】 発表資料の準備
- 【授業内容】 輪読(3章および4章)
- 【事後学修】 授業中に出了疑問と授業中に出题された問題を検討する

第4回

- 【事前学修】 発表資料の準備
- 【授業内容】 輪読(5章および6章)
- 【事後学修】 授業中に出了疑問と授業中に出题された問題を検討する

第5回

- 【事前学修】 発表資料の準備
- 【授業内容】 輪読(7章および8章)
- 【事後学修】 授業中に出了疑問と授業中に出题された問題を検討する

第6回

- 【事前学修】 発表資料の準備
- 【授業内容】 輪読(9章および10章)
- 【事後学修】 授業中に出了疑問と授業中に出题された問題を検討する

第7回

- 【事前学修】 発表資料の準備
- 【授業内容】 輪読(11章および12章)
- 【事後学修】 授業中に出了疑問と授業中に出题された問題を検討する

第8回

- 【事前学修】 発表資料の準備
- 【授業内容】 輪読(13章および14章)
- 【事後学修】 授業中に出了疑問と授業中に出题された問題を検討する

第9回

- 【事前学修】 発表資料の準備
- 【授業内容】 輪読(15章および16章)
- 【事後学修】 授業中に出了疑問と授業中に出题された問題を検討する

第10回

- 【事前学修】 発表資料の準備
- 【授業内容】 輪読(17章および18章)
- 【事後学修】 授業中に出了疑問と授業中に出题された問題を検討する

第11回

- 【事前学修】 発表資料の準備
- 【授業内容】 輪読(19章および20章)
- 【事後学修】 授業中に出了疑問と授業中に出题された問題を検討する

第12回

- 【事前学修】 発表資料の準備
- 【授業内容】 輪読(21章および22章)
- 【事後学修】 授業中に出了疑問と授業中に出题された問題を検討する

第13回

- 【事前学修】 発表資料の準備
- 【授業内容】 輪読(23章および24章)
- 【事後学修】 授業中に出了疑問と授業中に出题された問題を検討する

第14回

- 【事前学修】 発表資料の準備
- 【授業内容】 輪読(25章および26章)
- 【事後学修】 授業中に出了疑問と授業中に出题された問題を検討する

第15回

- 【事前学修】 発表資料の準備
- 【授業内容】 輪読(27章)、論文の検索
- 【事後学修】 授業で扱わなかった章から興味のあるものをまとめる

■成績評価方法・基準

発表(70%)内訳:資料が担当箇所を適切にまとめられているかどうか(80%)、可読性(20%)
議論への参加(30%):テキストの内容や自身の経験を踏まえてコメントできているか(100%)

■学修に必要な準備

管理会計に関する基礎知識を有すること

■関連して受講することが望ましい科目

管理会計特講

■テキスト

加登豊・吉田栄介・新井康平(編著)(2022)『実務に生かす 管理会計のエビデンス』中央経済社 ISBN 9784502420016

■参考文献

■履修上の注意

オフィスアワーの代替として教員のアドレスを開示します
資料の配布などで適宜LSMを利用します

■この科目の特色

1. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業に該当

本授業では、受講者によるグループディスカッションや発表を中心とした双方向の形式を取り入れています。

科目名

財務諸表分析特講

担当教員

棚橋 則子

■テーマ

財務諸表分析とバリュエーション

■講義内容

2025年からは新NISAが始まるなど、政府は投資を促進するような政策を打ち出しています。これに伴い、将来への備えのために資産運用(特に、株式投資)を行う人も年々増加しています。株式投資を行う際には企業が公表する財務諸表がとても重要な役割を果たしていますが、財務諸表を上手く使いこなすためには、会計理論に加え、理論に基づいた分析手法を知らなければなりません。実際に証券市場などを分析・調査している証券アナリストも、投資の意思決定に役立てるために財務諸表を分析し、それらを基に企業の価値評価や予測を行っています。そこでこの授業では、アナリストが行う財務諸表分析と会計情報を用いた価値評価(バリュエーション)の手法を身につけることを目的としています。なお、この授業は、各回で取り上げるテーマに対して教員・受講生でディスカッションを行うアクティブ・ラーニング科目になります。

■達成目標

- 1)財務諸表分析で用いられる指標の意味やその判断基準を理論的に説明することができる
- 2)指標の計算結果を見て、企業の特徴を把握することができる
- 3)会計情報を用いた価値評価モデルを理論的に説明することができる
- 4)Excelを使って、株式価値や期待リターンを計算することができる

■授業計画

第1回

【事前学修】 シラバスを熟読し、授業計画を理解する。

【授業内容】 ガイダンス(授業の進め方、輪読の説明、成績評価方法など)、テキストの担当箇所の割り振り、ディスカッション

【事後学修】 授業で配付されたガイダンスプリントをもう一度熟読する。参考文献(桜井, 2018)を読み、貸借対照表と損益計算書の構造を復習しておく。

第2回

【事前学修】 第1章「投資とバリュエーション入門①(pp.1-15)」を読み、その内容と疑問点などをWordにまとめ、期限までにLMSを通して提出する(提出されたWordファイルを基に次回授業にて教員・受講生とディスカッションをし、その後、教員からフィードバックを行う)。わからない部分は事前に参考文献などで調べておく。

【授業内容】 担当者による第1章「投資とバリュエーション入門(pp.1-30)」の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、受講生が事前にテキストを読んだ際に生じた疑問点へのフィードバック、ディスカッション

【事後学修】 授業プリントとテキスト第1章(pp.1-15)をもう一度読み、復習する。

第3回

【事前学修】 第1章「投資とバリュエーション入門②(pp.15-28)」を読み、その内容と疑問点などをWordにまとめ、期限までにLMSを通して提出する(提出されたWordファイルを基に次回授業にて教員・受講生とディスカッションをし、その後、教員からフィードバックを行う)。わからない部分は事前に参考文献などで調べておく。

【授業内容】 担当者による第1章「投資とバリュエーション入門②(pp.15-28)」の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、受講生が事前にテキストを読んだ際に生じた疑問点へのフィードバック、ディスカッション

【事後学修】 授業プリントとテキスト第1章(pp.15-28)をもう一度読み、復習する。

第4回

【事前学修】 第2章「財務諸表入門①(pp.31-45)」を読み、その内容と疑問点などをWordにまとめ、期限までにLMSを通して提出する(提出されたWordファイルを基に次回授業にて教員・受講生とディスカッションをし、その後、教員からフィードバックを行う)。わからない部分は事前に参考文献などで調べておく。

【授業内容】 担当者による第2章「財務諸表入門①(pp.31-45)」の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、受講生が事前にテキストを読んだ際に生じた疑問点へのフィードバック、ディスカッション

【事後学修】 授業プリントとテキスト第2章(pp.31-45)をもう一度読み、復習する。

第5回

【事前学修】 第2章「財務諸表入門②(pp.46-54)」を読み、その内容と疑問点などをWordにまとめ、期限までにLMSを通して提出する(提出されたWordファイルを基に次回授業にて教員・受講生とディスカッションをし、その後、教員からフィードバックを行う)。わからない部分は事前に参考文献などで調べておく。

【授業内容】 担当者による第2章「財務諸表入門②(pp.46-54)」の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、受講生が事前にテキストを読んだ際に生じた疑問点へのフィードバック、ディスカッション

【事後学修】 授業プリントとテキスト第2章(pp.46-54)をもう一度読み、復習する。

第6回

【事前学修】 第3章「財務諸表をどのようにバリュエーションに用いるか①(pp.61-80)」を読み、その内容と疑問点などをWordにまとめ、期限までにLMSを通して提出する(提出されたWordファイルを基に次回授業にて教員・受講生とディスカッションをし、その後、教員からフィードバックを行う)。わからない部分は事前に参考文献などで調べておく。

【授業内容】 担当者による第3章「財務諸表をどのようにバリュエーションに用いるか①(pp.61-80)」の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、受講生が事前にテキストを読んだ際に生じた疑問点へのフィードバック、ディスカッション

【事後学修】 授業プリントとテキスト第3章(pp.61-80)をもう一度読み、復習する。

第7回

【事前学修】 第3章「財務諸表をどのようにバリュエーションに用いるか②(pp.80-93)」を読み、その内容と疑問点などをWordにまとめ、期限までにLMSを通して提出する(提出されたWordファイルを基に次回授業にて教員・受講生とディスカッションをし、その後、教員からフィードバックを行う)。わからない部分は事前に参考文献などで調べておく。

【授業内容】 担当者による第3章「財務諸表をどのようにバリュエーションに用いるか②(pp.80-93)」の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、受講生が事前にテキストを読んだ際に生じた疑問点へのフィードバック、ディスカッション

【事後学修】 授業プリントとテキスト第3章(pp.80-93)をもう一度読み、復習する。

第8回

- 【事前学修】 補論「要求リターンと資産評価モデル(pp.96-100)」を読み、その内容と疑問点などをWordにまとめ、期限までにLMSを通して提出する(提出されたWordファイルを基に次回授業にて教員・受講生とディスカッションをし、その後、教員からフィードバックを行う)。わからない部分は事前に参考文献などで調べておく。
- 【授業内容】 担当者による補論「要求リターンと資産評価モデル(pp.96-100)」の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、受講生が事前にテキストを読んだ際に生じた疑問点へのフィードバック、ディスカッション
- 【事後学修】 授業プリントとテキスト補論(pp.96-100)をもう一度読み、復習する。輪読資料を整理・ファイリングし、すぐに参照できるようにしておく。

第9回

- 【事前学修】 第4章「現金主義会計、発生主義会計、割引キャッシュフロー評価①(pp.101-113)」を読み、その内容と疑問点などをWordにまとめ、期限までにLMSを通して提出する(提出されたWordファイルを基に次回授業にて教員・受講生とディスカッションをし、その後、教員からフィードバックを行う)。わからない部分は事前に参考文献などで調べておく。
- 【授業内容】 担当者による第4章「現金主義会計、発生主義会計、割引キャッシュフロー評価①(pp.101-113)」の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、受講生が事前にテキストを読んだ際に生じた疑問点へのフィードバック、ディスカッション
- 【事後学修】 授業プリントとテキスト第4章(pp.101-113)をもう一度読み、復習する。

第10回

- 【事前学修】 第4章「現金主義会計、発生主義会計、割引キャッシュフロー評価②(pp.113-125)」を読み、その内容と疑問点などをWordにまとめ、期限までにLMSを通して提出する(提出されたWordファイルを基に次回授業にて教員・受講生とディスカッションをし、その後、教員からフィードバックを行う)。わからない部分は事前に参考文献などで調べておく。
- 【授業内容】 担当者による第4章「現金主義会計、発生主義会計、割引キャッシュフロー評価②(pp.113-125)」の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、受講生が事前にテキストを読んだ際に生じた疑問点へのフィードバック、ディスカッション
- 【事後学修】 授業プリントとテキスト第4章(pp.113-125)をもう一度読み、復習する。

第11回

- 【事前学修】 第5章「発生主義会計とバリュエーション：簿価のプライシング①(pp.129-143)」を読み、その内容と疑問点などをWordにまとめ、期限までにLMSを通して提出する(提出されたWordファイルを基に次回授業にて教員・受講生とディスカッションをし、その後、教員からフィードバックを行う)。わからない部分は事前に参考文献などで調べておく。
- 【授業内容】 担当者による第5章「発生主義会計とバリュエーション：簿価のプライシング①(pp.129-143)」の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、受講生が事前にテキストを読んだ際に生じた疑問点へのフィードバック、ディスカッション
- 【事後学修】 授業プリントとテキスト第5章(pp.129-143)をもう一度読み、復習する。

第12回

- 【事前学修】 第5章「発生主義会計とバリュエーション：簿価のプライシング②(pp.143-161)」を読み、その内容と疑問点などをWordにまとめ、期限までにLMSを通して提出する(提出されたWordファイルを基に次回授業にて教員・受講生とディスカッションをし、その後、教員からフィードバックを行う)。わからない部分は事前に参考文献などで調べておく。
- 【授業内容】 担当者による第5章「発生主義会計とバリュエーション：簿価のプライシング②(pp.143-161)」の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、受講生が事前にテキストを読んだ際に生じた疑問点へのフィードバック、ディスカッション
- 【事後学修】 授業プリントとテキスト第5章(pp.143-161)をもう一度読み、復習する。

第13回

- 【事前学修】 第6章「発生主義会計とバリュエーション：利益のプライシング①(pp.165-180)」を読み、その内容と疑問点などをWordにまとめ、期限までにLMSを通して提出する(提出されたWordファイルを基に次回授業にて教員・受講生とディスカッションをし、その後、教員からフィードバックを行う)。わからない部分は事前に参考文献などで調べておく。
- 【授業内容】 担当者による第6章「発生主義会計とバリュエーション：利益のプライシング①(pp.165-180)」の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、受講生が事前にテキストを読んだ際に生じた疑問点へのフィードバック、ディスカッション
- 【事後学修】 授業プリントとテキスト第6章(pp.165-180)をもう一度読み、復習する。

第14回

- 【事前学修】 第6章「発生主義会計とバリュエーション：利益のプライシング②(pp.180-192)」を読み、その内容と疑問点などをWordにまとめ、期限までにLMSを通して提出する(提出されたWordファイルを基に次回授業にて教員・受講生とディスカッションをし、その後、教員からフィードバックを行う)。わからない部分は事前に参考文献などで調べておく。
- 【授業内容】 担当者による第6章「発生主義会計とバリュエーション：利益のプライシング②(pp.180-192)」の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、受講生が事前にテキストを読んだ際に生じた疑問点へのフィードバック、ディスカッション
- 【事後学修】 授業プリントとテキスト第6章(pp.180-192)をもう一度読み、復習する。

第15回

- 【事前学修】 第7章「バリュエーションとアクティブ投資(pp.195-211)」を読み、その内容と疑問点などをWordにまとめ、期限までにLMSを通して提出する(提出されたWordファイルを基に次回授業にて教員・受講生とディスカッションをし、その後、教員からフィードバックを行う)。わからない部分は事前に参考文献などで調べておく。
- 【授業内容】 担当者による第7章「バリュエーションとアクティブ投資(pp.195-211)」の報告、報告に対する教員や受講生からのコメント、受講生が事前にテキストを読んだ際に生じた疑問点へのフィードバック、ディスカッション
- 【事後学修】 授業プリントとテキスト第7章(pp.195-211)をもう一度読み、復習する。

■成績評価方法・基準

事前に作成するプリント、授業当日の口頭報告、授業への積極的な参加・発言などにより総合的に評価する(具体的な評価基準はルーブリックなどの形で授業時に公開する)。なお、授業の5分の1を超えて(4回以上)欠席した場合には、単位の修得資格を失う。その他詳細については、初回授業で配付するガイダンスプリントを確認すること。

■学修に必要な準備

この授業は、財務諸表分析やバリュエーションの手法を習得することが目的のため、財務会計の基礎理論(貸借対照表や損益計算書の構造など)の詳細な解説は行いません。会計用語や理論はすでに身につけているものとして授業を進めていきます(目安:日商簿記検定2級の商業簿記)。財務会計の基礎理論に不安がある人は、桜井(2018)などで最低限の基礎知識を身につけたうえで初回の授業に出席してください。

■関連して受講することが望ましい科目

【受講前に受講してほしい科目】なし
【同時並行的に受講してほしい科目】財務諸表分析演習、財務会計論特講Ⅰ、コーポレート・ファイナンス特講
【受講後に受講してほしい科目】財務会計論特講Ⅱ

■テキスト

Penman, S. H. (2013) "Financial Statement Analysis and Security Valuation, Fifth edition," MacGraw-Hill(荒田映子・大雄智・勝尾裕子・木村晃久訳 (2018)『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション(原書第5版)』有斐閣)(9784641165236)

■参考文献

桜井久勝 (2018)『会計学入門(第5版)』日本経済新聞出版社(9784532113957)
桜井久勝 (2024)『財務会計講義(第25版)』中央経済社(9784502500718)
桜井久勝 (2024)『財務諸表分析[第9版]』中央経済社(9784502489914)

■履修上の注意

毎回事前に提出する課題にしっかり取り組んでください(内容を理解していなければ当日のディスカッションに参加できなくなります)。

授業中は積極的に発言してください。

授業にてパソコンを使用しますので、WordとExcelが使えるパソコンを持参してください(Windows推奨)。

授業開始前までにLMSをえるようにしておいてください。

上記カリキュラムはあくまで予定であり、受講生のレベルや理解度に応じて柔軟にカリキュラムを変更します(その場合は授業内で指示します)。

オフィス・アワーについては開講時に指示します。

■この科目の特色

1. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業に該当

本授業では、受講生が各回で取り上げるテーマについて報告し、その報告内容に基づいてディスカッションを実施し、教員がフィードバックを行うという双方向の形式を取り入れています。

また、実際に公表されている財務諸表を用いて、財務諸表分析や企業価値評価を行い、その結果をもとに教員・受講生間でディスカッションを行っています。

科目名

税務会計論特講Ⅰ

担当教員

堀 治彦

■テーマ

税務会計及び租税法に関する基礎的知識を身につける

■講義内容

税務会計は、企業が法人税を納める過程で行う課税所得計算という事象について、租税法、会計学、そして租税論などの立場から総合的な分析・検討を行う点で、学際性に富んだ学問領域です。
本講義では、税務会計のこうした特色に注目しつつ、税務会計及び租税法全般の基礎的な知識を身に付け、計算技術的特徴の理解をすることを目的としています。
また、履修者の興味関心に合わせて、弁護士、会計士、税理士、企業の財務担当者、税務行政に携わる行政官などの専門家をゲストスピーカーとして迎えることも想定しています。
本科目は次のテーマに該当します。
【アクティブ・ラーニング科目】・【双方向型授業】・【自主学習支援】

■達成目標

本講義では下記の到達目標を設定しています。
1 税務会計・租税法の知識及び論点を学習し活用できること
2 法解釈や事例の検討を通じ養った論理的思考力を応用できること
3 これらの知識・スキル発揮し、高度専門職や研究者として社会的要請に応えられる人材となること

■授業計画

第1回

【事前学修】 企業の課税に関する事案について調べ、講義の全体像をイメージしてみましょう。また、テキスト導入部分(テキスト序章)を一読してみましょう

【授業内容】 オリエンテーション(授業の内容と進め方)、税務会計論概論、企業課税の基礎

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第2回

【事前学修】 テキストChapter1 法人税法の基礎(前半部分)を予習する

【授業内容】 企業課税と個人課税

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第3回

【事前学修】 テキストChapter1 法人税法の基礎(後半部分)を予習する

【授業内容】 法人所得の計算

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第4回

【事前学修】 テキストChapter2 益金および損金(前半部分)を予習する

【授業内容】 益金

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第5回

【事前学修】 テキストChapter2 益金および損金(中盤部分)を予習する

【授業内容】 損金

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第6回

【事前学修】 テキストChapter2 益金および損金(後半部分)を予習する

【授業内容】 別段の定め

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第7回

【事前学修】 テキストChapter3 出資と分配(株主法人間取引)(前半部分)を予習する

【授業内容】 出資

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第8回

【事前学修】 テキストChapter3 出資と分配(株主法人間取引)(後半部分)を予習する

【授業内容】 分配1

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第9回

【事前学修】 テキストChapter3 出資と分配(株主法人間取引)(後半部分)を予習する

【授業内容】 分配2

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第10回

【事前学修】 テキストChapter4 グループ法人と組織再編成に関する税制(前半部分)を予習する

【授業内容】 グループ法人税制1

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第11回

【事前学修】 テキストChapter4 グループ法人と組織再編成に関する税制(前半部分)を予習する

【授業内容】 グループ法人税制2

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第12回

【事前学修】 配布された資料を予習する

【授業内容】 同族会社、グループ通算制度、連結納税制度

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第13回

【事前学修】 テキストChapter4 グループ法人と組織再編成に関する税制(後半部分)を予習する

【授業内容】 組織再編税制1

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第14回

【事前学修】 テキストChapter4 グループ法人と組織再編成に関する税制(後半部分)を予習する

【授業内容】 組織再編税制2

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第15回

【事前学修】 これまでの講義部分を振り返っておく

【授業内容】 講義総括、その他の論点の提示、税務会計論特講Ⅱへのブリッジ、課題の提示(課題についてはLMS(Learning Management System)等を通じてフィードバックします)

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

■成績評価方法・基準

1. 期末課題(60%) 2. 授業時課題や講義へのコミット(40%)により総合的に評価します。

1.~2. に関する具体的な評価基準は講義時に公開します。

なお、授業の5分の1を超えて欠席した場合には単位の修得資格を失います。

■学修に必要な準備

特に企業の税に関する記事などに関心を持つと、講義内容について、より深い理解や関心が得られるため、日頃から税のトピックにふれておくこと。

■関連して受講することが望ましい科目

租税法特講Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、財務会計論特講Ⅰ、Ⅱ、国際会計論特講Ⅰ、Ⅱ、税務会計論特講Ⅱ、その他の隣接科目、関連科目などを履修しておくこと(あるいは将来的に履修)が望ましい。

■テキスト

渡辺徹也『スタンダード法人税法 第3版』(弘文堂、2023年)ISBN 978-4-335-35925-5

* 改訂版が出る場合があります。適宜アナウンスしますが、その際は最新版を購入してください。

■参考文献

金子宏『租税法第24版』(弘文堂、2021年)ISBN 978-4-335-31555-8

* 改訂版が出る場合があります。適宜アナウンスしますが、その際は最新版を購入してください。

そのほか、講義の中で提示します。

■履修上の注意

・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。

・授業内で適宜実施する小テスト・レポートを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。

・テキスト以外に必要に応じてレジュメを配布します。その場合には、各自保管をしておいてください。

・講義に関する質問、相談等は、講義終了後の教室又は研究室にて随時受け付けます。

・本科目は Google Workspace for Education 等のコラボレーションソフトウェアやのLMS(Learning Management System)、必要に応じて Web

会議ツール等を適宜活用する予定です。「東北学院大学 IT ナビ」をよく熟読し、理解をしておくことに留意してください。

・オフィスアワー及びメールの連絡先については、講義開始時にアナウンスします。

■この科目の特色

1. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業 および 2. 実務家教員や実務家による授業に該当

本講義は、専門文献の輪読や報告、少人数による対話による双方向のディスカッションを通じ、税務会計及び租税法全般の基礎的な知識を身に付け、理解を図ることを目的としています。

また、実務経験に基づく知見のフィードバックを通じて、理論的な側面にとどまらない広範なナレッジの提供も計ります。

さらには、履修者の興味関心に合わせて、担当教員のネットワークを通じ、弁護士、会計士、税理士、企業の財務担当者、税務行政に携わる行政官などの専門家をゲストスピーカーとして迎えることも想定しています。

科目名

税務会計論特講Ⅱ

担当教員

堀 治彦

■テーマ

税務会計及び租税法に関する応用的知識を身につける

■講義内容

税務会計は、企業が法人税を納める過程で行う課税所得計算という事象について、租税法、会計学、そして租税論などの立場から総合的な分析・検討を行う点で、学際性に富んだ学問領域です。
本講義では、税務会計のこうした特色に注目しつつ、税務会計及び租税法全般の応用的な知識、論点や計算技術的特徴を理解することを目的としています。
また、履修者の興味関心に合わせて、弁護士、会計士、税理士、企業の財務担当者、税務行政に携わる行政官などの専門家をゲストスピーカーとして迎えることも想定しています。
本科目は次のテーマに該当します。【アクティブ・ラーニング科目】・【双方向型授業】・【自主学習支援】

■達成目標

本講義では下記の到達目標を設定しています。
1 税務会計・租税法の知識及び論点を学習し活用できること
2 法解釈や事例の検討を通じ養った論理的思考力を応用できること
3 これらの知識・スキル発揮し、高度専門職や研究者として社会的要請に応えられる人材となること

■授業計画

第1回

【事前学修】 企業の課税に関する事案について調べ、講義の全体像をイメージしてみましょう。また、テキスト1及び2を一読してみましょう

【授業内容】 オリエンテーション(授業の内容と進め方)、税務会計論概論、企業課税の応用

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第2回

【事前学修】 テキスト①Chapter5 事業体の種類と課税(前半部分)を予習する

【授業内容】 事業体課税を受けるエンティティと導管型のエンティティ

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第3回

【事前学修】 テキスト①Chapter5 事業体の種類と課税(後半部分)を予習する

【授業内容】 信託と公益法人

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第4回

【事前学修】 テキスト②第1章を予習する

【授業内容】 国際租税法概論

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第5回

【事前学修】 テキスト②第2章を予習する

【授業内容】 租税条約

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第6回

【事前学修】 テキスト②第3章を予習する

【授業内容】 国内源泉所得

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第7回

【事前学修】 テキスト②第4章を予習する

【授業内容】 外国法人・非居住者の投資所得に対する源泉徴収

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第8回

【事前学修】 テキスト②第5章および6章を予習する

【授業内容】 外国法人・非居住者の事業所得に関する申告納付

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第9回

- 【事前学修】 テキスト②第7章を予習する
- 【授業内容】 外国税額控除
- 【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第10回

- 【事前学修】 テキスト②第8章を予習する
- 【授業内容】 内国法人の対外進出における外国子会社
- 【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第11回

- 【事前学修】 テキスト②第9章を予習する
- 【授業内容】 移転価格税制
- 【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第12回

- 【事前学修】 テキスト②第10章を予習する
- 【授業内容】 多国籍企業の資金調達
- 【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第13回

- 【事前学修】 テキスト②第11章を予習する
- 【授業内容】 内国法人による対外進出
- 【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第14回

- 【事前学修】 テキスト②第12章を予習する
- 【授業内容】 国際課税における日本の租税法と外国法との相互作用
- 【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第15回

- 【事前学修】 これまでの講義部分を振り返っておく
- 【授業内容】 講義総括、その他の論点の提示、課題の提示(LMS(Learning Management System)等を通じてフィードバックします)
- 【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

■成績評価方法・基準

1. 期末課題(60%) 2. 授業時課題や講義へのコミット(40%)により総合的に評価します。
1.~2. に関する具体的な評価基準は講義時に公開します。
なお、授業の 5 分の1を超えて欠席した場合には単位の修得資格を失います。

■学修に必要な準備

特に企業の税に関する記事などに関心を持つと、講義内容について、より深い理解や関心が得られるため、日頃から税のトピックにふれておくこと。

■関連して受講することが望ましい科目

租税法特講Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、財務会計論特講Ⅰ、Ⅱ、国際会計論特講Ⅰ、Ⅱ、税務会計論特講Ⅰ、そのほかの隣接科目、関連科目などを履修しておくこと(あるいは将来的に履修)が望ましい。

■テキスト

- ① 渡辺徹也『スタンダード法人税法 第3版』(弘文堂、2023年)ISBN 978-4-335-35925-5
② 増井良啓、宮崎裕子『国際租税法 第4版』(東京大学出版会、2019年)ISBN978-4-13-032393-2
* 改訂版が出ることがあります。適宜アナウンスしますが、その際は最新版を購入してください。

■参考文献

金子宏『租税法第24版』(弘文堂、2021年)ISBN 978-4-335-31555-8
* 改訂版が出ることがあります。適宜アナウンスしますが、その際は最新版を購入してください。
そのほか、講義の中で提示します。

■履修上の注意

- ・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。
- ・授業内で適宜実施する小テスト・レポートを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。
- ・テキスト以外に必要に応じてレジュメを配布します。その場合には、各自保管をしておいてください。
- ・講義に関する質問、相談等は、講義終了後の教室又は研究室にて随時受け付けます。
- ・本科目は Google Workspace for Education 等のコラボレーションソフトウェアやLMS(Learning Management System)、必要に応じて Web 会議ツール等を適宜活用する予定です。「東北学院大学 IT ナビ」をよく熟読し、理解しておくことに留意してください。
- ・オフィスアワー及びメールの連絡先については、講義開始時にアナウンスします。

■この科目の特色

1. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業 および 2. 実務家教員や実務家による授業に該当

本講義は、専門文献の輪読や報告、少人数による対話による双方向のディスカッションを通じ、税務会計及び租税法全般の応用的な知識を身に付け、理解を図ることを目的としています。

また、実務経験に基づく知見のフィードバックを通じて、理論的な側面にとどまらない広範なナレッジの提供も計ります。

さらには、履修者の興味関心に合わせて、担当教員のネットワークを通じ、弁護士、会計士、税理士、企業の財務担当者、税務行政に携わる行政官などの専門家をゲストスピーカーとして迎えることも想定しています。

科目名

租税法特講Ⅰ

担当教員

堀 治彦

■テーマ

租税法に関する基礎的知識を身につける

■講義内容

租税はあらゆる経済活動に隣接・関連しており、私たちの社会生活において決して無視することのできないものです。租税法は法人税法、所得税法、消費税法、相続税法、ひいては地方税法などあらゆる経済活動に関連してきます。本講義は、わが国の租税法の基本原則など、各租税法律の概要と基本的考え方についてグループワークや輪読、報告を通じ学びます。また、履修者のニーズに応じて、企業の担当者、行政当局、弁護士・税理士・会計士などの専門家をゲストスピーカーとして招聘することも予定しています。本科目は次のテーマに該当します。【アクティブ・ラーニング科目】・【双方向型授業】・【自主学習支援】

■達成目標

本講義では下記の到達目標を設定しています。
1 租税法の知識及び論点を学習し活用できること
2 法解釈や事例の検討を通じ養った論理的思考力を応用できること
3 これらの知識・スキル発揮し、高度専門職や研究者として社会的要請に応えられる人材となること

■授業計画

第1回

【事前学修】 租税法に関する事案について調べ、講義の全体像をイメージしてみましょう。また、テキスト全体を一読してみましょう

【授業内容】 オリエンテーション(授業の内容と進め方、判例・裁判例等の調べ方)、租税法の重要性

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第2回

【事前学修】 テキスト2.を予習する

【授業内容】 租税法律関係の意義と内容

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第3回

【事前学修】 テキスト3.を予習する

【授業内容】 課税要件

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第4回

【事前学修】 テキスト4.を予習する

【授業内容】 租税の確定・徴収等

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第5回

【事前学修】 テキスト5.を予習する

【授業内容】 租税をめぐる紛争の解決

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第6回

【事前学修】 テキスト6.を予習する

【授業内容】 租税処罰法

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第7回

【事前学修】 テキスト7.を予習する

【授業内容】 税理士制度

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第8回

【事前学修】 テキスト7.を予習する

【授業内容】 税理士制度2

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第9回

【事前学修】 テキスト第1編第1章を予習する

【授業内容】 租税法の基礎理論—租税法主義

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第10回

【事前学修】 テキスト第1編第2章を予習する

【授業内容】 租税法の基礎理論—租税公平主義

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第11回

【事前学修】 テキスト第1編第3章を予習する

【授業内容】 租税法の基礎理論—租税法の法源

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第12回

【事前学修】 テキスト第1編第4章を予習する

【授業内容】 租税法の基礎理論—租税法の解釈と適用

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第13回

【事前学修】 テキスト第2編第1章を予習する

【授業内容】 所得税—所得税の基礎

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第14回

【事前学修】 テキスト第2編第2章を予習する

【授業内容】 所得税—所得分類

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第15回

【事前学修】 これまでの講義部分を振り返っておく

【授業内容】 講義総括、その他の論点の提示、課題の提示
(LMS(Learning Management System)等を通じてフィードバックします)

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

■成績評価方法・基準

1. 期末課題(60%) 2. 授業時課題や講義へのコミット(40%)により総合的に評価します。
- 1.~2. に関する具体的な評価基準は講義時に公開します。

なお、授業の 5 分の1を超えて欠席した場合には単位の修得資格を失います。

■学修に必要な準備

税に関する記事などに関心を持つと、講義内容について、より深い理解や関心が得られるため、日頃から税のトピックにふれておくこと。

■関連して受講することが望ましい科目

租税法特講Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ 財務会計論特講Ⅰ、Ⅱ、国際会計論特講Ⅰ、Ⅱ、税務会計論特講Ⅱ、そのほかの隣接科目、関連科目などを履修しておくこと(あるいは将来的に履修)が望ましい。

■テキスト

金子 宏 編著『ケースブック租税法<第6版>』(弘文堂、2023)ISBN978-4-335-30521-4

* 改訂版が出る場合があります。適宜アナウンスしますが、その際は最新版を購入してください。

■参考文献

金子宏『租税法第 24 版』(弘文堂、2021 年)ISBN 978-4-335-31555-8

* 改訂版が出る場合があります。適宜アナウンスしますが、その際は最新版を購入してください。
そのほか、講義の中で提示します。

■履修上の注意

- ・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。
- ・授業内で適宜実施する小テスト・レポートを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。
- ・テキスト以外に必要に応じてレジュメを配布します。その場合には、各自保管をしておいてください。
- ・講義に関する質問、相談等は、講義終了後の教室又は研究室にて随時受け付けます。
- ・本科目は Google Workspace for Education 等のコラボレーションソフトウェアやLMS(Learning Management System)、必要に応じて Web 会議ツール等を適宜活用する予定です。「東北学院大学 IT ナビ」をよく熟読し、理解をしておくことに留意してください。
- ・オフィスアワー及びメールの連絡先については、講義開始時にアナウンスします。

■この科目の特色

1. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業 および 2. 実務家教員や実務家による授業に該当

本講義は、専門文献の輪読や報告、少人数による対話による双方向のディスカッションを通じ、租税法全般の基礎的な知識を身に付け、理解を図ることを目的としています。

また、実務経験に基づく知見のフィードバックを通じて、理論的な側面にとどまらない広範なナレッジの提供も計ります。

さらには、履修者の興味関心に合わせて、担当教員のネットワークを通じ、弁護士、会計士、税理士、企業の財務担当者、税務行政に携わる行政官などの専門家をゲストスピーカーとして迎えることも想定しています。

科目名

租税法特講Ⅱ

担当教員

堀 治彦

■テーマ

租税法に関する応用的知識を身につける

■講義内容

租税はあらゆる経済活動に隣接・関連しており、私たちの社会生活において決して無視することのできないものです。租税法は法人税法、所得税法、消費税法、相続税法、ひいては地方税法などあらゆる経済活動に関連してきます。本講義は、わが国の租税法の応用論点について、グループワークや輪読、報告を通じ学びます。また、履修者のニーズに応じて、企業の担当者、行政当局、弁護士・税理士・会計士などの専門家をゲストスピーカーとして招聘することも予定しています。本科目は次のテーマに該当します。【アクティブ・ラーニング科目】・【双方向型授業】・【自主学習支援】

■達成目標

本講義では下記の到達目標を設定しています。
1 租税法の知識及び論点を学習し活用できること
2 法解釈や事例の検討を通じ養った論理的思考力を応用できること
3 これらの知識・スキル発揮し、高度専門職や研究者として社会的要請に応えられる人材となること

■授業計画

第1回

【事前学修】 テキスト第2編第3章を予習する

【授業内容】 オリエンテーション(授業の内容と進め方、判例・裁判例等の調べ方) 所得税一所得の計算と年度帰属

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第2回

【事前学修】 テキスト第2編第4章を予習する

【授業内容】 所得税一所得税額の計算

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第3回

【事前学修】 テキスト第3編第1章を予習する

【授業内容】 法人税一法人税の基礎

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第4回

【事前学修】 テキスト第3編第2章を予習する

【授業内容】 法人税一法人所得の意義と計算

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第5回

【事前学修】 テキスト第3編第3章を予習する

【授業内容】 法人税一法人税額の計算

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第6回

【事前学修】 テキスト第3編第4章を予習する

【授業内容】 法人税一同族会社の特例

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第7回

【事前学修】 テキスト第4編序章を予習する

【授業内容】 相続税・贈与税一相続税の意義と類型

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第8回

【事前学修】 テキスト第4編1章を予習する

【授業内容】 相続税・贈与税一相続税

【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第9回

【事前学修】 テキスト第4編2章を予習する

- 【授業内容】 相続税・贈与税―贈与税
- 【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第10回

- 【事前学修】 テキスト第4編3章を予習する
- 【授業内容】 相続税・贈与税―税負担の不当な減少の防止
- 【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第11回

- 【事前学修】 テキスト第4編4章を予習する
- 【授業内容】 相続税・贈与税―財産の評価
- 【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第12回

- 【事前学修】 テキスト第4編5章を予習する
- 【授業内容】 相続税・贈与税―確定・徴収手続
- 【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第13回

- 【事前学修】 自身で関心のある判例・裁判例等を調べてみる
- 【授業内容】 応用論点 1―判例・裁判例の分析
- 【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第14回

- 【事前学修】 自身で関心のある判例・裁判例等を調べてみる
- 【授業内容】 応用論点 2―判例・裁判例の分析
- 【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

第15回

- 【事前学修】 これまでの講義部分を振り返っておく
- 【授業内容】 講義総括、その他の論点の提示、課題の提示(LMS(Learning Management System)等を通じてフィードバックします)
- 【事後学修】 講義を振り返りつつ、要点を復習

■成績評価方法・基準

1. 期末課題(60%) 2. 授業時課題や講義へのコミット(40%)により総合的に評価します。
 - 1.～2.に関する具体的な評価基準は講義時に公開します。
- なお、授業の 5 分の1を超えて欠席した場合には単位の修得資格を失います。

■学修に必要な準備

税に関する記事などに関心を持つと、講義内容について、より深い理解や関心が得られるため、日頃から税のトピックにふれておくこと。

■関連して受講することが望ましい科目

租税法特講Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅴ 財務会計論特講Ⅰ、Ⅱ、国際会計論特講Ⅰ、Ⅱ、税務会計論特講Ⅱ、その他の隣接科目、関連科目などを履修しておくこと(あるいは将来的に履修)が望ましい。

■テキスト

金子 宏 編著『ケースブック租税法<第6版>』(弘文堂、2023) ISBN 978-4-335-30521-4
* 改訂版が出る場合があります。適宜アナウンスしますが、その際は最新版を購入してください。

■参考文献

金子宏『租税法第 24 版』(弘文堂、2021 年) ISBN 978-4-335-31555-8
* 改訂版が出る場合があります。適宜アナウンスしますが、その際は最新版を購入してください。
そのほか、講義の中で提示します。

■履修上の注意

- ・対話型の授業を心がけるので、質問など積極的な取組みを期待します。
- ・授業内で適宜実施する小テスト・レポートを活用し、授業内容の理解を深めるとともに授業への積極的な参加を促します。
- ・テキスト以外に必要に応じてレジュメを配布します。その場合には、各自保管をしておいてください。
- ・講義に関する質問、相談等は、講義終了後の教室又は研究室にて随時受け付けます。
- ・本科目は Google Workspace for Education 等のコラボレーションソフトウェアやLMS(Learning Management System)、必要に応じて Web 会議ツール等を適宜活用する予定です。「東北学院大学 IT ナビ」をよく熟読し、理解をしておくことに留意してください。
- ・オフィスアワー及びメールの連絡先については、講義開始時にアナウンスします。

■この科目の特色

1. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業 および
2. 実務家教員や実務家による授業に該当

本講義は、専門文献の輪読や報告、少人数による対話による双方向のディスカッションを通じ、租税法全般の応用的な知識を身に付け、理解を図ることを目的としています。
また、実務経験に基づく知見のフィードバックを通じて、理論的な側面にとどまらない広範なナレッジの提供も計ります。
さらには、履修者の興味関心に合わせて、担当教員のネットワークを通じ、弁護士、会計士、税理士、企業の財務担当者、税務行政に携わる行政官などの専門家をゲストスピーカーとして迎えることも想定しています。

科目名

租税法特講Ⅲ

担当教員

小池 和彰

■テーマ

法人税法の研究

■講義内容

わが国の法人税法とその理論の学習。

■達成目標

この講義では、法人税法に基づく確定申告書作成を通じて、法人税法の理解を深めることができる。又、判例研究もできるようになる。

■授業計画

第1回

【事前学修】 法人税法とは何かを読む

【授業内容】 法人税法とは何か

【事後学修】 法人税とは何かの問題を解く

第2回

【事前学修】 減価償却の方法を読む

【授業内容】 減価償却の方法

【事後学修】 減価償却の問題を解く

第3回

【事前学修】 棚卸資産の評価を読む

【授業内容】 棚卸資産の評価

【事後学修】 棚卸資産の評価の問題を解く

第4回

【事前学修】 租税公課を読む

【授業内容】 租税公課の取り扱い

【事後学修】 租税公課の問題を解く

第5回

【事前学修】 交際費を読む

【授業内容】 交際費の損金不算入

【事後学修】 交際費の問題を解く

第6回

【事前学修】 受取配当の益金算入を読む

【授業内容】 受取配当等の益金不算入

【事後学修】 受取配当の益金算入の問題を解く

第7回

【事前学修】 圧縮記帳を読む

【授業内容】 圧縮記帳の税務上の処理

【事後学修】 圧縮記帳の問題を解く

第8回

【事前学修】 繰延資産の償却を読む

【授業内容】 繰延資産の償却

【事後学修】 繰延資産の償却の問題を解く

第9回

【事前学修】 貸倒引当金を読む

【授業内容】 貸倒引当金の取り扱い

【事後学修】 貸倒引当金の問題を解く

第10回

【事前学修】 借地権を読む

- 【授業内容】 借地権課税
【事後学修】 借地権の問題を解く

第11回

- 【事前学修】 有価証券を読む
【授業内容】 有価証券の損益
【事後学修】 有価証券の問題を解く

第12回

- 【事前学修】 リース取引等を読む
【授業内容】 リース取引等
【事後学修】 リース取引等の問題を解く

第13回

- 【事前学修】 税額の控除のテキストを読む
【授業内容】 税額の控除
【事後学修】 税額の控除の問題を解く

第14回

- 【事前学修】 法人税の申告のテキストを読む
【授業内容】 法人税の申告
【事後学修】 法人税の申告の問題を解く

第15回

- 【事前学修】 役員給与を読む
【授業内容】 役員給与の取り扱い
【事後学修】 役員給与の問題を解く

■成績評価方法・基準

レポート(50%)と報告(50%)で評価する。評価の基準はルーブリック等の形で授業時に公開する。

■学修に必要な準備

該当の回に読む箇所の予習を欠かさない

■関連して受講することが望ましい科目

■テキスト

小池和彰・小池真紀著『解説法人税法』(税務経理協会・2018年)ISBN978-4-419-06579-9

■参考文献

特になし

■履修上の注意

オフィス・アワー等については開講時に指示する

■この科目の特色

1. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業に該当

本授業では、講義を行っている途中でも受講者による授業内容についての質問を随時受け付けており、その内容によっては単に回答するのみならず、受講者全員による討論に発展させることがある。

科目名

監査論特講

担当教員

佐久間 義浩

■テーマ

財務諸表監査

■講義内容

上場企業の公表する財務諸表は、その信頼性を確保するために、公認会計士などの監査をうけなければならない。本講義では、財務諸表監査の制度概要および理論面について考察する。講義は、毎回の報告担当の受講生が指定箇所を報告し、参加者全員によるディスカッションにより行う。【アクティブ・ラーニング科目】

■達成目標

本講義の受講により、財務諸表監査の制度と理論を説明することができる。

■授業計画

第1回

【事前学修】

最低限、これから授業を進めるにあたって必要となる英語の能力を高めておくこと(ここでいう「最低限」とは、学術論文を辞書を用いることなく読解し、その内容を説明(日本語でも可)できる程度をいう)。あわせて監査に関する最低限の学習を済ませること(ここでいう「最低限」とは、公認会計士試験の監査論の科目合格できる程度をいう)。

【授業内容】

ガイダンス

【事後学修】

最低限、これから授業を進めるにあたって必要となる英語の能力を高めておくこと(ここでいう「最低限」とは、学術論文を辞書を用いることなく読解し、その内容を説明(日本語でも可)できる程度をいう)。あわせて監査に関する最低限の学習を済ませること(ここでいう「最低限」とは、公認会計士試験の監査論の科目合格できる程度をいう)。

第2回

【事前学修】

第2回の授業の参加にあたってのレジュメ等を作成しておく。

【授業内容】

保証サービス市場

【事後学修】

第2回の授業内容について、再度、教科書の該当箇所を読んでおく。

第3回

【事前学修】

第3回の授業の参加にあたってのレジュメ等を作成しておく。

【授業内容】

監査基準の設定プロセス

【事後学修】

第3回の授業内容について、再度、教科書の該当箇所を読んでおく。

第4回

【事前学修】

第4回の授業の参加にあたってのレジュメ等を作成しておく。

【授業内容】

監査報告書

【事後学修】

第4回の授業内容について、再度、教科書の該当箇所を読んでおく。

第5回

【事前学修】

第5回の授業の参加にあたってのレジュメ等を作成しておく。

【授業内容】

監査人の法的責任

【事後学修】

第5回の授業内容について、再度、教科書の該当箇所を読んでおく。

第6回

【事前学修】

第6回の授業の参加にあたってのレジュメ等を作成しておく。

【授業内容】

監査人の倫理

【事後学修】

第6回の授業内容について、再度、教科書の該当箇所を読んでおく。

第7回

【事前学修】

第7回の授業の参加にあたってのレジュメ等を作成しておく。

【授業内容】

監査の責任と目的

【事後学修】

第7回の授業内容について、再度、教科書の該当箇所を読んでおく。

第8回

【事前学修】

第8回の授業の参加にあたってのレジュメ等を作成しておく。

【授業内容】

監査証拠の性質と種類

【事後学修】

第8回の授業内容について、再度、教科書の該当箇所を読んでおく。

第9回

【事前学修】

第9回の授業の参加にあたってのレジュメ等を作成しておく。

【授業内容】

監査計画

【事後学修】 第 9 回の授業内容について、再度、教科書の該当箇所を読んでおく。

第10回

【事前学修】 第10回の授業の参加にあたってのレジュメ等を作成しておく。

【授業内容】 重要性と監査リスク

【事後学修】 第 10 回の授業内容について、再度、教科書の該当箇所を読んでおく。

第11回

【事前学修】 第11回の授業の参加にあたってのレジュメ等を作成しておく。

【授業内容】 内部統制

【事後学修】 第 11 回の授業内容について、再度、教科書の該当箇所を読んでおく。

第12回

【事前学修】 第12回の授業の参加にあたってのレジュメ等を作成しておく。

【授業内容】 不正リスク

【事後学修】 第 12 回の授業内容について、再度、教科書の該当箇所を読んでおく。

第13回

【事前学修】 第13回の授業の参加にあたってのレジュメ等を作成しておく。

【授業内容】 監査プロセスにおける情報技術

【事後学修】 第 13 回の授業内容について、再度、教科書の該当箇所を読んでおく。

第14回

【事前学修】 第14回の授業の参加にあたってのレジュメ等を作成しておく。

【授業内容】 監査計画

【事後学修】 第 14 回の授業内容について、再度、教科書の該当箇所を読んでおく。

第15回

【事前学修】 第15回の授業の参加にあたってのレジュメ等を作成しておく。

【授業内容】 監査と保証サービス

【事後学修】 第 15 回の授業内容について、再度、教科書の該当箇所を読んでおくの復習。

■成績評価方法・基準

報告内容(50%)、発言(50%)により総合的に評価する。

具体的な評価基準は、授業時に公開する。

理由を問わず4回以上欠席(遅刻も欠席扱いとする。また授業の予習内容が乏しいと判断した場合も欠席として扱う)した場合は、単位の修得資格を失う。

■学修に必要な準備

・英語のテキストを用いるので、履修に当たっては、事前に英語に堪能であることを要する。

・日本の監査制度に関する知識を前提として、講義を進めるので、事前に学習済みのこと(公認会計士試験の監査論の合格レベル程度の知識で構わない)。

・毎回の授業に参加するにあたって、受講生はテキストに書かれた内容をすべて調べ、不明点を明らかにしたうえで、各自レジュメを作成し、授業に臨むこと。

■関連して受講することが望ましい科目

特になし。

■テキスト

Arens, A.A., R.J. Elder and M.K. Beasley, Auditing and Assurance Services An Integrated Approach, Pearson. 最新版を購入のこと(開講時に指示する)。

■参考文献

開講時に指示する。

■履修上の注意

■この科目の特色

1. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業 および 2. 実務家教員や実務家による授業に該当

本授業では、受講者の事前学習、授業時における発表をもとにグループディスカッションを行います。社会人として培った経験を基に受講生の理解の促進を目指します。

科目名

特別講義Ⅰ

担当教員

折橋 伸哉

※オムニバス

■テーマ

実務家からの話を通して企業経営における現実の課題や会計の実務などについて学ぶ。

■講義内容

企業経営や会計実務に携わる実務家から実際の企業経営や会計実務について学ぶ特別の講義である。複数の実務家が数回ずつ講義を担当するオムニバス方式での講義となる。講義を担当するのは、実際に会社や組織を経営されている経営者、納税に関わる税理士など実務経験者、および経営や会計の研究者(大学教員など)である。なお本研究科の教員が全体のコーディネータを務める。

■達成目標

- ①企業経営・会計の実際について学び、各企業が抱える課題について自分なりの考えを述べることができる。
- ②講義で学んだ経営・会計の理論的な内容が実際にどのように使えるのか(その限界も含めて)理解をしている。

■授業計画

第1回

- 【事前学修】 エレクトロニクス・IT業界について予め調べておくこと
- 【授業内容】 エレクトロニクス・IT業界における財務・会計について
- 【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第2回

- 【事前学修】 第1回の復習に基づき、エレクトロニクス・IT業界についてより理解を深めておくこと
- 【授業内容】 エレクトロニクス・IT業界における財務・会計の他業界と異なる特徴について
- 【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第3回

- 【事前学修】 デジタルコンテンツ産業について予め調べておくこと
- 【授業内容】 無形資産を中核とするデジタル取引の在り方について
- 【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第4回

- 【事前学修】 デジタルコンテンツ産業について予め調べておくこと
- 【授業内容】 デジタルコンテンツ産業の抱えている課題について(移転価格税制など)
- 【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第5回

- 【事前学修】 シェアリング経済について予め調べておくこと
- 【授業内容】 シェアリングエコノミーの発展により生じた徴税、課税問題について
- 【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第6回

- 【事前学修】 シェアリング経済について予め調べておくこと
- 【授業内容】 シェアリングエコノミーなど新しい社会の動きに対応するためにあるべき課税システム
- 【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第7回

- 【事前学修】 東北の温泉、旅館業について調べておく。
- 【授業内容】 おもてなしの経営学
- 【事後学修】 レジュメに基づいて講義の内容を振り返り考えたことをまとめる。

第8回

- 【事前学修】 前回の講義の内容を確認する。
- 【授業内容】 地域再生と企業再生(1)企業再生
- 【事後学修】 レジュメに基づいて講義の内容を振り返る。震災時に果たした役割について考えをまとめる。

第9回

- 【事前学修】 前回の講義の内容を確認し、企業再生について調べておく。
- 【授業内容】 コロナ禍における企業経営
- 【事後学修】 講義の内容を確認し、企業再生後の経営について考えをまとめる。

第10回

- 【事前学修】 前回の講義の内容を確認し、CSR、CSVを調べておく。
- 【授業内容】 創業150年老舗企業の企業力(CSR⇒CSVの時代へ)
- 【事後学修】 4回の講義を振り返り、感想、参考になった点を文書にまとめる。

第11回

- 【事前学修】 トヨタ自動車の考え(哲学、手法など)を事前調査してまとめる。
- 【授業内容】 トヨタ自動車からの学びと経営への気付き
- 【事後学修】 トヨタ自動車の考え方が今後の皆さんの「税理士」という士業でどの様に役立てそうかを考え、発表する

第12回

- 【事前学修】 皆さんが受ける立場で考える「人材育成」を事前調査してまとめる。
- 【授業内容】 人材育成の社会ニーズ、若者に伝えている気付き
- 【事後学修】 今後の皆さんの「税理士」という士業でクライアント(顧問先)を育成する必要性が出てきた時の具体的な展開を考え、まとめる。

第13回

- 【事前学修】 以下の文献を事前に読んでおくこと。網倉久永(2009)「経営戦略の策定プロセス:事前計画としての戦略、事後的パターンとしての戦略」『赤門マネジメント・レビュー』8(12), 701-738。
- 【授業内容】 理論から実務を考える① 経営戦略論の基本的な考え方を知る
- 【事後学修】 経営戦略論の基本的な考え方をこれまでの自分の経験と合わせて検討し、レポート作成に備えること。

第14回

- 【事前学修】 以下の文献を事前に読んでおくこと。新宅純二郎, 小川紘一, 善本哲夫(2006)「光ディスク産業の競争と国際的協業モデル—擦り合わせ要素のカプセル化によるモジュラー化の進展」『赤門マネジメント・レビュー』5(2), 35-66。福澤光啓(2008)「なぜ多角化は難しいのか?—経営学輪講 Prahalad and Bettis (1986)」『赤門マネジメント・レビュー』7(7), 535-544。
- 【授業内容】 理論から実務を考える② 経営戦略を策定する。
- 【事後学修】 事業戦略、全社戦略の考え方をこれまでの自分の経験と合わせて検討し、レポート作成に備えること。

第15回

- 【事前学修】 これまでの14回の授業を振り返っておくこと
- 【授業内容】 経営学における理論と実践の在り方について
- 【事後学修】 この授業を学んだことを振り返り、タームペーパーを作成すること。

■成績評価方法・基準

レポート(80%)、授業への参加・貢献度(20%)により評価する。
具体的な評価基準は授業時に公開する。

■学修に必要な準備

各講師の講義の中で指示する。

■関連して受講することが望ましい科目

■テキスト

講師の用意するレジュメ、その他各講師の指示するもの(開講時に指示する)

■参考文献

随時指示する

■履修上の注意

■この科目の特色

1. 双方向または多方向に行われる討論を伴う授業および2. 実務家教員や実務家による授業に該当

本授業では、講義を行っている途中でも受講者による授業内容についての質問を随時受け付けており、その内容によっては単に回答するのみならず、受講者全員による討論に発展させることがある。さらに、実務経験に基づくケーススタディを随時用いて、理論の実践との架橋による理解の促進を図っている。

科目名

特別講義Ⅱ

担当教員

折橋 伸哉

※オムニバス

■テーマ

実務家からの話を通して企業経営における現実の課題や会計の実務などについて学ぶ。

■講義内容

企業経営や会計実務に携わる実務家から実際の企業経営や会計実務について学ぶ特別の講義である。複数の実務家が数回ずつ講義を担当するオムニバス方式での講義となる。講義を担当するのは、実際に会社や組織を経営されている経営者、納税に関わる税理士など実務経験者、および経営や会計の研究者(大学教員など)である。なお本研究科の教員が全体のコーディネータを務める。

■達成目標

- ①企業経営・会計の実際について学び、各企業が抱える課題について自分なりの考えを述べることができる。
- ②講義で学んだ経営・会計の理論的な内容が実際にどのように使えるのか(その限界も含めて)理解をしている。

■授業計画

第1回

【事前学修】 税理士業界について調べておく。

【授業内容】 税理士業界の全体像と将来性

【事後学修】 授業内容について復習する。次回以降の各論につなげる。

第2回

【事前学修】 税務相談、提案について経験等を踏まえて整理しておく。

【授業内容】 税務相談、提案における差別化要因

【事後学修】 授業内容について復習する。

第3回

【事前学修】 中小企業の管理会計について経験等を踏まえて整理しておく。

【授業内容】 中小企業の管理会計実務

【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第4回

【事前学修】 相続税の財産評価について経験等を踏まえて整理しておく。

【授業内容】 相続税の財産評価事例研究

【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第5回

【事前学修】 中小企業の資金繰り対策について経験等を踏まえて整理しておく

【授業内容】 中小企業の資金繰り対策

【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第6回

【事前学修】 相続・事業承継問題について経験等を踏まえて整理しておく。

【授業内容】 相続・事業承継問題事例研究

【事後学修】 授業の内容を振り返り、復習を行うこと。

第7回

【事前学修】 前回までの内容を復習する。

【授業内容】 総まとめ

【事後学修】 授業内容について復習する。

第8回

【事前学修】 近年の採用に関するトピックスを事前研究しておく。

【授業内容】 中小企業の採用について

【事後学修】 講義の内容を振り返り感じたことをまとめる。

第9回

【事前学修】 人材の定着を促進する方法について事前研究しておく。

【授業内容】 中小企業の人材定着について

【事後学修】 講義の内容を振り返り感じたことをまとめる。

第10回

- 【事前学修】 働き方改革に関するトピックスを事前研究しておく。
- 【授業内容】 働き方改革について
- 【事後学修】 講義の内容を振り返り感じたことをまとめる。

第11回

- 【事前学修】 理念やヴィジョン浸透の施策について事前研究しておく。
- 【授業内容】 ヴィジョン浸透について
- 【事後学修】 講義の内容を振り返り感じたことをまとめる。

第12回

- 【事前学修】 自身の今までのキャリアと今後のキャリアを語れる準備をしておく。
- 【授業内容】 ニューノーマル時代のキャリア形成について
- 【事後学修】 講義の内容を振り返り感じたことをまとめる。

第13回

- 【事前学修】 ゲスト企業を分析しておく。
- 【授業内容】 地元経営者との座談会
- 【事後学修】 講義の内容を振り返り感じたことをまとめる。

第14回

- 【事前学修】 前回までの講義の内容を確認し、感想をまとめておく。
- 【授業内容】 授業6回分のまとめとクラスディスカッション
- 【事後学修】 講義の内容を振り返り感じたことをまとめる。

第15回

- 【事前学修】 これまでの14回の授業を振り返っておくこと
- 【授業内容】 経営学における理論と実践の在り方について
- 【事後学修】 この授業を学んだことを振り返り、タームペーパーを作成すること。

■成績評価方法・基準

レポート(80%)、授業への参加・貢献度(20%)により評価する。
具体的な評価基準は授業時に公開する。

■学修に必要な準備

各講師の講義の中で指示する。

■関連して受講することが望ましい科目

■テキスト

講師の用意するレジュメ、その他各講師の指示するもの(開講時に指示する)

■参考文献

随時指示する

■履修上の注意

■この科目の特色

1. 双方または多方向に行われる討論を伴う授業および2. 実務家教員や実務家による授業に該当

本授業では、講義を行っている途中でも受講者による授業内容についての質問を随時受け付けており、その内容によっては単に回答するのみならず、受講者全員による討論に発展させることがある。さらに、実務経験に基づくケーススタディを随時用いて、理論の実践との架橋による理解の促進を図っている。